

岡村真八郎撰

露國事情

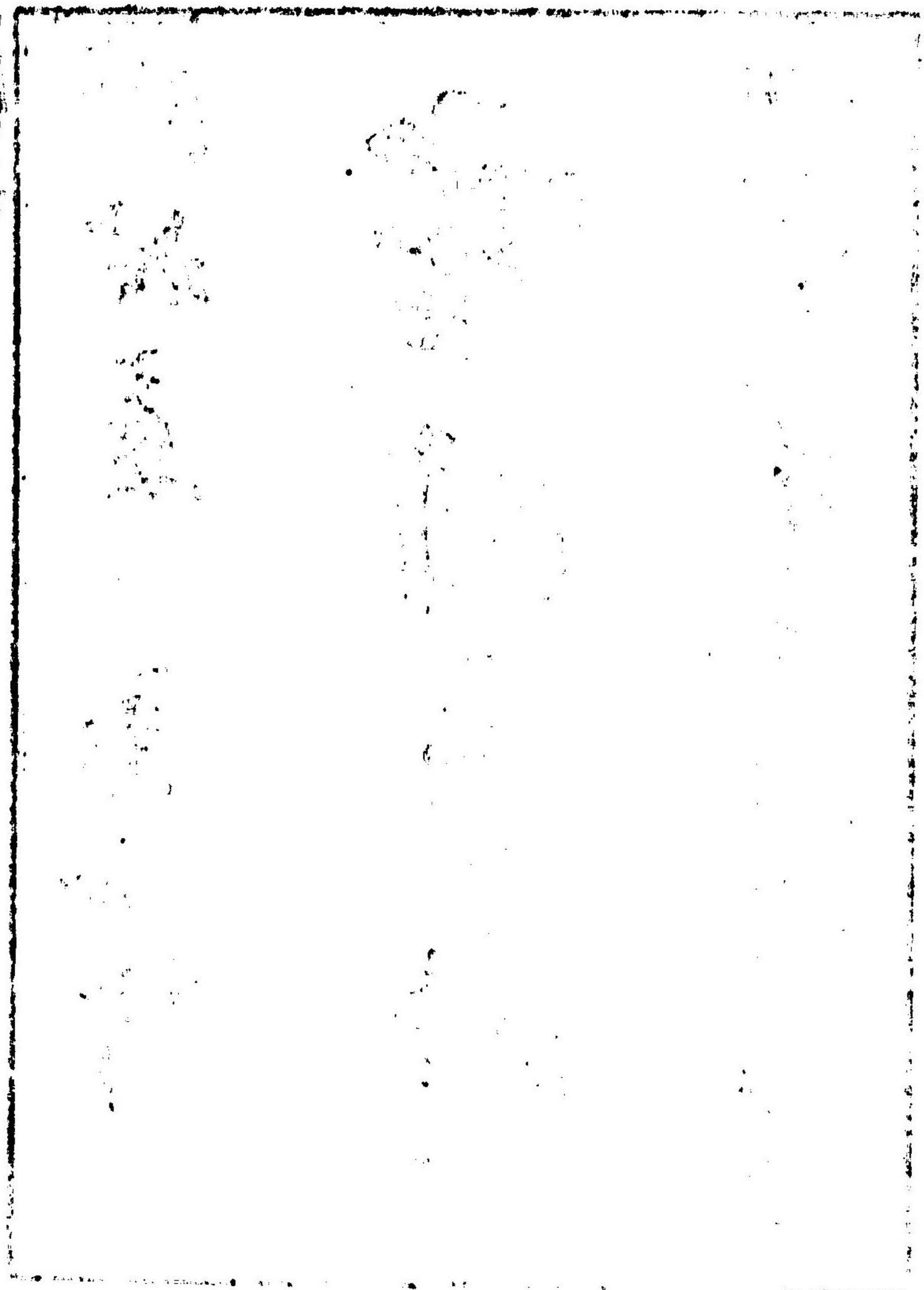
明治十六年三月板権免許

東國通

東國通

小引

地學協會員マツケンシイウオルレイス氏六年間露
 西段ニ在テ内地ノ事情ヲ探打シ民情風俗ヲ觀察ノ其一般公
 年三月露京セントピートルスバルグニ着シ初メ數月間滯留
 ノ口のナリシト雖モ學問上有益ノ事情多クナルヲ以テ數年
 ニ亘リ遂ニ六ケ年ノ星霜ヲ經過スルニ至レリ其間冬季ハ大
 抵露京セントピートルスバルグニ密着モスコウ府ヤロスロフ
 府ニ在テ都府ノ事情ヲ探リ夏季ハ常ニ地方ヲ巡回シテ地方
 官吏豪農僧侶商賈農民ニ就テ博ク地方ノ事情ヲ探知シ千八



百七十五年十二月英國ニ歸郷ノ後ニ於ルモ猶露西亞ノ知友
ニ就テ其事情ヲ質シ以テ在露六年間ニ蒐集シタル歴史上ノ
關係目下ノ現状ヲ簡單ニ論述シタルヲ以テ編中偏チテ都鄙
ノ事情ヲ悉スト云爾

二十日
以下
ニ
以テ

百七十五年十二月英國ニ歸郷ノ後ニ於ルモ猶密西亞ノ知友ニ就テ其事情ノ實ヲ以テ在露六年間ニ蒐集ンタル書史上ノ關係目下ノ現狀ヲ簡單ニ論述ンタルヲ以テ編中篇ヲク都部ノ事情ヲ志スト云約

露國事情

第一編 内地旅行

○鉄道

露國ニ於テ内地ノ旅行ハ復タ前日ノ比ニアラフサレナリ前世紀ニ於テ鉄道建築ノ大工事ヲ起シ口下鉄道線路ハ獨逸首府ベルリンヨリ便利ナル上等旅客車ヲ乘テ直ニ露京セントピートルスバルク或ハ舊都モスコウニ着シ又タオグツサセバストゴール或ハコウカサスノ山麓ニ至ルヲ得露西亞ニ於テ鉄道ノ便利ハ漸ク開進ニ赴クト謂フベシ抑旅客車ハ英國ニ於ルヨリ必ス善良ニシテ冬間ハ鉄製小煖爐ヲ備ヘ二重窓ヲ以テ之ヲ擁護ス驗温器等度以下三十度ニ下ル寒國ニ於テハ必要

準備あり

海軍の英米人ヨリ之ヲ見レハ進行極メテ緩慢ニシテ敢テ速
力ノ高度ニ進メス然レモ露西亞人ハ遊惰ノ風習ニシテ常ニ
飲食ヲ好ミ敢テ職業ニ勉強セサル事情ヲ察セザルベカリス
露西亞人ハ英國人ノ如ク職業ニ時間ヲ惜ムノ風習ハ更ニ見
サル所ニシテ只遊惰ニシテ飲食ヲ事トスルヲ見レハ露西亞
帝國ノ人民ハ皆富有ニシテ家ニ巨萬ノ餘裕アルガ如シト雖モ
實ニ然ルニシテ其事情ヲ察スレハ人民ハ大抵貧乏ニ
シテ其家ニ餘財アルモノハ露西亞ニ於テ生涯ニシテ其
地ノ貧乏ニシ

電車ニテ旅客ヲ輸送スルハ一時間十五英里乃至三十英里ノ
比露西亞ニテス面ニテ鐵道會社ハ大抵其約條ヲ履踐スト雖モ

只一事緊要ノ事ニ就テ實踐セザル事情アリ旅客ハ其都府ニ
至ラント欲シ流車ノ乘券ヲ購ヘ列車ニ乗テ一ノ停車場ニ着
ス正ニ其都府ニ着シタルヲ思惟シ出テ之ヲ見レハ豈計ラシ
廣原中ノ一停車場ニシテ猶其都府ニ遠スルハ數里ヲ要スル
ヲ知リ且又其停車場ハ券面ノ都府ト其名稱ヲ異ニスルヲ認
メ爰ニ於テ誰カ當然失意セサル者アラフニ露西亞人ハ之ヲ
以テ一般ノ通規ト爲ス常初奇怪ノ事ナリト思惟シタルモ到
底孤理ノ所爲ニ類スルヲ知リ一笑ニ歸シ然ラ其事情ヲ察ス
レハ敢テ土木工師鐵道會社ノ土木費用ヲ節シテ此不便ヲ來
シタルニアラザルハ確ク之ヲ保證スル所ニシテ至ク府内外
ノ地價高貴ナルト衛生論ノ勢力ヲ制シワレ鐵道論ノ旅客不
便ノ如キハ第二位ニ退ケラレタリニ因スルヲ知ルベシ

爰ニ土木工部鉄道會社ハ妄リニ誹謗スベカラザル一側アリ
露京シントピートルスバルグヨリ舊都モスコウニ至ルハ一
直線ノ鉄道アリテ四百英里ニ亘リ恰モ鳥ノ上天ニ翔ル如ク
左右ニ蜿蜒彎轉スルナシ特別氣車ニ乘テ十五時間僊朕ノ時
ヲ費スベシ其間只廣原中ニ樹林ト沼澤ヲ見ルノミニシテ更
ニ村落ノ人家アルヲ見ス只一回線路ニ沿テ其近傍ニタイベ
ル府ヲ見タリ此時少ク心ヲ慰メタル如シト雖モ只其傳忘ノ
氣ヲ轉シタルノミニシテ敢テ其府ノ有益ナルヲ感シタルコ
アラズ其屈退ナル想フベキナリ爰ニ於テ一疑案ヲ提起シ此
奇異ノ鉄道ヲ建築シタル事山ヲ探打スルニ皇帝之ヲ命スト
答フ之ヲ以テ最上ノ答辨ト爲ス疑ニ線路測定ノ際ニ當リ道
路事務長官モ亦テ鉄道建築事務委員中ニ在テ敢テ工事ニ通

曉シタルコトアラスト雖モ荷モ職權ニ依テ論議ノ協ハザル所
アリシテ以テニコラス皇帝之ヲ察シ擅斷之ヲ成スルニ決ス
他日道路事務長官皇帝ニ謁シ鉄道測量圖ヲ奉呈シテ其議定
ノ線路ヲ上申セントスルニ當リ皇帝親シテ規矩ヲ執テ圖上
ニ一直線ヲ畫シ一言衆議ヲ排除シテ曰ク汝線路ヲ斯ノ如シ
作レ爰ニ於テ線路直ニ成ル蓋シ此線路モ亦タ露京シントピ
ートルスバルク及ヒピタミツドト共ニ擅制國ノ盛大ナル記
念トシテ永シ後世ニ存スベキナリ
斯ノ如キ擅制ノ處斷ハ付テ政府ノ改良ヲ希圖シタル秘密黨
ニ就テ之ヲ見ル數次ナリ皇帝ノ擅斷ハ都テ經濟上ノ錯雜ナ
ル思案ヲ投棄シタルモノト謂フベシ近來露西亞ニ於テ輿論
ノ開化ヲ見ルト雖モ猶舊制ヲ墨守シ皇帝ノ擅斷ハ舊慣制度

ノ一ナリトシテ之ヲ維持スルモノアリ爰ヲ以テ日下露西亞ノ鉄道ハ旅客貨物ノ運輸既ニ充分ノ便利ヲ得タルヲ以テ復ク本線ヲ短縮スルヲ務メ支線ヲ布設シテ左右ノ都府ヲ連接スルヲ可トス抑政治上ノ思想ヲ去テ之ヲ論スレハ猶其目的ヲ維持スルニ幾多ノ妙案アルベシ

○政府ノ關涉

今露西亞ニ於テ鉄道ヲ開進セントスルニ方テ爰ハ一ノ障礙アリ英國ニ於テハ見ルベカラザルノ事情ト謂フベシ抑英國ニ於テ一身上ノ利益又ニハ一會社ノ利益ニ關シテ政府ハ務メテ之ニ關涉セザルヲ主義トシ都テ人民ノ自由ニ任スルヲ常トス爰ヲ以テ人民ノ權理ハ國家ヲ妨害スルニアラザルヨリハ自由ノ活用ヲ得ルト雖モ露西亞ニ於テハ一方ニ絕對ノ權

カアツテ人民ノ權理ヲ束縛シ極メテ狹迫ノ境域内ニ壓縮スルヲ以テ自由ノ活動ヲ得ル能ハス今一大工事ヲ起サントスルニ方テ先ツ第一ノ疑問ハ此新事業ノ如キ國家ノ得失ニ關スル如何ニアリ故ニ鉄道ノ一新線路ヲ開設セントスレハ必ス陸軍士官ヲ以テ協議員ニ充ツルヲ常トス其論議ハ決議ニ至テ頗ル權カヲ有スルナリ之レ露國ニ於テ鉄道線路實測圖ハ必ス參謀部ノ検査ヲ經サルベカラザル成規ニ因スルト雖トモ尋常一般ノ思想ヲ以テ其事情ヲ洞察スル能ハス万一歐洲東部ニ於テ開戰ノ事アルニ違ヘハ鉄道ノ權理ハ政府ノ專有ニ歸シ會社ニ於テ如何トモ爲ス能ハス蓋シ露國ハ復タ往昔ノ露西亞ニアラスクライモノ戰爭ノ日ニ於テ軍隊輸重ノ運輸ハ極メテ單一ノ方法ニ據リ鉄道僅ニ七百五十英里ヲ有

スト雖トモ日下正一萬一千英里ニ亘リ猶年々送テ新線布
設ニ從事ス

○運河

露國ニ於テ水運モ亦近年大ヒニ開進シタリト謂フベシ然レ
モ氣候ノ爲メニ航路ヲ障礙スルアリ抑半年間ハ河流氷結シ
テ航路ヲ遮斷ス氷解ノ時ニ於テハ河流滿溢シテ兩岸ニ漲リ
沿岸低地ノ村落ハ皆テ水中ニ沈没シ村落ノ人民ハ一葉ノ小
船ヲ以テ互ニ通行スルヲ得ルノ一面シテ其漲流ハ直ニ沈没
スト雖モ流勢急激ナルヲ以テ夏期ヲ誤リ氷結中ニ滞留シタ
ル漁船ハ此氷解ノ時ニ乘テ砂岸ニ道ヲ探リ河口ニ下ル極メ
テ困難ヲ見ルナリ蓋シテ巴ノ一流ハ北部河流ノ女王ト稱シ
常ニ不絶多量ノ水ヲ給スト謂フ

○露西亞ノ二大勝地

一ブオルガ河流ノ風土

露國ニ巡遊スルモノ常ニ探勝ノ地方ハブオルガ河ノ二流
ニシテ之ヲ露西亞ノ二人探勝地ト謂フ英人ノ露國ニ遊フモ
ノ首府セントピートルスバルグ舊都モスニウモ巡遊シテ猶
其他ノ地方ヲ探ラントスルモノハ鐵道ニ乗テニゴニノゴ
ロトノ大博覽會ヲ一覽シテブオルカ通航ノ鐵船ニ乗ルヲ常ト
ス特ニ露西亞ハ探勝ノ地ニ乏シキヲ知ルヲ以テ此河流ヲ下
ルモ亦一興ニシテ佛國リオン河ノ如ク河岸地方ハ平坦ニ
シテ左岸ハ所々ニ森林ヲ有シ繁茂スルヲ見ル尋常一葉ノ小
舟ニ於テ乏シカタスト謂フベシ

ケイザン府

聖朝ニ至レハ早已ニ海船ハ「ケイザン」府ニ着ス此地ハ曾テ
「カチイト」人ノ首府ニシテ今猶無數ノタルタル人居住
スルモノアリ府外ニ同々教ノ拜堂アリテ小塔ノ尖立スルヲ
見ル之ニ依テ考レハ「カチイト」人ハ既ニ三世紀前ニ於テ「セ
コウ」人ニ服従シタリト雖モ「イスラ」宗教ヲ奉スル人民ハ今
猶此地方ニ生存スルヲ知ルマシテ而シテ此府ハ亞細亞ノ風俗
ヲ脱シ歐羅巴ノ風俗ニ似タルヲ以テ探勝者此地ニ遊フモノ
東洋ノ事情ヲ探ラント欲シ探打ノ思想ニ富ミ細大心ヲ留メ
有益ノ事情ヲ探リ以テ他日紀行ノ材料ニ充ツルモノ、如キ
ハ悲切ニ之ヲ優待スルカ如シト雖モ若シ其人ニアラザレハ
愁嘆失意ノ狀アルヲ見ル蓋シ航路ニ於テ「ケイザン」府ハ最モ
有益ノ地ニシテ其人民ハ東洋ノ風俗ヲ脱シ一種特有ノ性質

ヲ有ス他ノ地方ニ於テ「シムピルス」「サマラ」「サリト」等ノ如キ
利益ナキノ比ニアラス

「シクリン」スヤヤゴリ丘陵

第三日ハ曉天正ニ太陽ノ騰起スルノ時ハ方リ山脉ノ如ク水
平面ニ現出シテ觀望ヲ遮斷スルアリ後ニ於テ忽然山ニ對シ
哨々不平ヲ訴フ無名ノ土塊何ソ平野ノ此地ニ在ル依テ思フ
ニ此方向ニ於テ最近ノ山脉ハ「コウカサ」山ニアラスンバ他
ナシト雖モ此地ヲ距ルノ遠近ナルヲ以テ今船中ニ在テ之ヲ
見ルベキ山ナシ既ニ其山脉ハ「シクリン」スヤヤゴリノ一勝地タ
ルヲ知り歐洲西部ニ在テ斯ノ如キ小丘意ニ介スル者ナシト
雖モ驟人國佛人ノ所謂「沙王國」於テハ東部露西亞ニ於ケル
如キ此平原ニ此小丘ヲ見ル猶大山ノ觀ヲ爲スベシナルハ

メ天山ニ比スレハ一蝶埃ノヲ然リト雖ニ深林鬱蒼トシテ山
面ハ静カニ水岸ニ升シ恰ニ行旅ヲ迎フルカ如ク特ニ初春嫩
芽ノ滿山ニ萌ヘ晚秋霜葉ノ紅ヲ粧フタルヲ見レハ亦タ一層
ノ美觀ニシテ之ヲ胸臆ニ記シ復タ容易ニ忘ルベカラザルノ
感アリ

フィンニス及ヒタルタル人種

露國ノ知友ニ對シ愛國ノ情實ヲ察スレハ頗ル懺悔ニ感ヘス
ト雖ヒテオオルガノ風土ハ之ヲ讚美スル能ハスニズニヨリヤ
リシニ至ル旅行ノ費用時日困難ヲ合セテ之ヲ辨償スルハ
足ラスト謂フヘシ途上点々風土ノ見ルベキモノアリト雖ヒ
其數小ニシテ僻處ナリ一盞ノ醇酒ヲ嘗メテ一時ノ快味ヲ沾
ント欲レハ多量ノ水ヲ調和シテ無味淡湯ナリ愛ニ於テ熱ク

思フニ河岸ニ上陸スルヨリ本口船中ニ在ルノ慢レルニ如カ
ザルヲ知ル蓋シ船中ニ在テ露西亞農民ノ一群ハ素野ノ風ア
リ更ニ禮節ニ關セス懇々親ク談話ヲ要シ還ニ身上ノ談ニ
及ツ爲メニ倦怠無爲ノ時ヲ轉シテ快樂有益ノ時ニ消費スル
ヲ得タリ而シテ其農民ハ質朴正直ニシテ屈退ノ狀アリト雖
モ外國ノ事情ヲ知ルニ熱心ニシテ之ヲ談スレハ倦怠ノ色ナ
ク問答陸續トシテ絶ル期ナシ偶小兒ノ質問ニ類似スルモノ
アリト雖モ大抵要點ニアリ又々他ノ一群ハフィンニス人ニ
シテ此地方ニ住スルヲ知ル蕃族類別ノ研究ニ關シ極メテ有
益ナルヲ信スフィンニス人ハ露西亞人ト其風俗ヲ異ニシ交
際ノ情淡薄ナルヲ以テ自カク沈着ニシテ人ヲ危懼スルノ狀
アルヲ見ルタルタル人ハ活潑快樂ノ風アリ大抵細商ニシテ

紗布紅巾ヲ商ナリ一荷ノ行李ニ倚テ一團ニ箕踞シ船中ノ温
度九十度ニ在リト雖も身ニ寛裕汚穢ノ絨衣ヲ褻ヒ頭ニ毛皮
ノ帽ヲ頂キ敏捷ノ粒眼ヲ張テ四邊ヲ瞥見スルハ奸智ノ狀具
ルベシ之ニ隣リテ魯鈍ノ農民ヲイニス人ノ其座ヲ占ムル
ハ其反對ノ狀見ルベキナリ又々其談話ヲ聞ケハソントヒ
トルスバルクモスコウ或ハアストリカン等都府ノ事情ヲ演
シ敢テ商業ノ事ニ及ハザルハ真正ノ商賈ニ擬ス其狡猾ノ狀
ヲ見ルベシ日没ニ至レハ同宿ノ一群ヲ携ヘ甲板上一隅ニ
酒ヲ禮拜式ヲ爲ス以テ續經ヲ始ムレハ同宿ノ一群ハ皆其場
ニ聚リ鬚ヲ撫シ或ハ毛氈一片ヲ取テ之ニ跪キ或ハ身ヲ伏シ
敏烈ニ且ル其狀恰モ生兵ノ嚴肅ナル教師ノ指揮ヲ受テ操練
ヲ爲シ彷彿タリ若シ此旅行ヲシテ九月ノ終リニアワシメハ

「三ノブ」ノブ「ソ」大博覽會ノ歸路ニ際スルヲ以テ只フイ
ヨス「タルメル」入ノ「オ」オクス「箱」アルメ「ム」アシルカシ「ア」ニ「ベル」
「ア」ボクハ「ラ」其他ノ東洋人種ヲ見ルヲ得テ種族類別上ノ研究
ニ関シ猶一層ノ有益ヲ見ルベシト雖も彩色燦然タル畫像ヲ
見ル如ク恰モ羅漢ト同船ノ感アツテ其厭忌ノ狀ハ想フベキ
ナリ

ドン河風土

抑アオルガノ航路ハ既ニ四日間ヲ經過シ大抵各種人民ノ風
俗民情ハ復々見ルベキモノナシ爰リ以テ「ア」スト「ラ」カン「ニ」進
航ヲ中止シサリシ「ン」ニ上陸ス爰ニ一線ノ鉄道アリ延長殆ソ
ト五十英里ニ且ル「ア」オルガ「ド」ン「三」流ノ間ヲ接ス蓋シ此鉄道
ハ實ニ其名ニ適シ真正ノ鉄道ニシテ他ノ地方ニ於ル日々運

輸スル瀛車ノ類ニアラス一週二回ノ運轉ニ歸シ瀛車出發ノ期ヲ誤レハ徒然三日間ヲ滯留シ次便ノ發車ヲ待タザルヲ得ス蒙邁強壯ノ少年ハ直ニ陸路ヲ取テ行クモノアリ之レ此鉄道ノ歐州ニ於テ評價ヲ失シタルニ因スト雖ニ實際世評ノ如クナラザルヲ辨明セザルベカラズ抑此鉄道ハ奇異ノ運轉ヲ爲シ凹凸起伏シテ轟然轟聲ヲ發スルヲ以テ神經虛弱ノ人ハ爲メニ不快ヲ感スト雖ニ神經常ノ如キモノハ神色自若平生ニ異ナルナシ壓懼ニ依テ轟鳴ヲ發スルノ不快アリト雖ニ運轉ノ緩慢ナルヲ以テ瀛車ノ軌道ヲ脫走スルハ却テ一時ノ快樂ト謂フベシ

此一週二回ノ瀛車ニ乗テカクツナニ着スレハ瀛船ハ直ニ河口ノレストフニ向テ發航ス抑ドソ河ノ通航ハゾオルガノ航

路ニ比シ頗ル困難ニシテ河流極ノ淺ク砂岸ハ常ニ其位置ヲ變更シテ一定ノ河流ヲ定メザルヲ以テ瀛船ハ時々砂岸ニ衝突スル日ニ數回ニ及ヒ或ハ單ニ機關ノ反轉ニ依テ此災害ヲ免ルヲ得ルト雖ニ大抵人力ノ補助ヲ仰カザルベカラズ瀛船砂岸ニ固着セテ容易ニ之ヲ脱却スル能ハザルノ時ニ際シ一奇ノ方法ニ依テ此災害ヲ免ル、ナリ船長ハ常ニコサツク兵一隊ヲシテ無賃乗船ヲ許シ豫メ瀛船砂岸ニ固着スルノ際ニ於テ其補助ヲ得ルベキヲ締約ス故ニ其災害ニ際スレハ直ニ其軍卒ニ命シ強潮ノ綱索ヲ以テ水中ニ投シ之ヲ抽出スルナリ此勞役ヲ見レハ敢テ快愉ノ所業ニアラズ且ツ上陸セテ濡衣ヲ更換スル準備ナシト雖ニ軍卒ハ常ニ船長ノ命ニ悦服セテ荷重之ニ抗抵スルノ狀ナキヲ見ル愍然憐ムベキノ感アリ

リ抑コヤツク兵ハ寒氣ニ感染シテ復タリウマナス病ニ感ス
ルナヤカ如シ

ドン河ハ地理學上ニ於テ歐洲大河ノ一ニ屬ス其幅圓ト延長
ハ其名義ニ於テ間然スル所ナシト雖モ其深サニ至テハ其名
ニ對シ其幅圓延長ニ比シ其名ニ背クモノアルヲ見ルベシ一
日一大平低船中流ニ在テ俄然進行ヲ停止スルヲ見ル之レ一
騎馬ノ其船ヲ過キ中流ヲ沙ルヲ待ツナリ又テ或時ハコヤツ
ク人ノ旅客アリ船長ニ請フテ波石場外ノ地ニ上陸セシマラ
ズ船長上陸ノ方便ナキヲ以テ其請求ヲ謝絶ス爰ニ於テ直
ニ中流ニ投シ水中ヲ徒歩シテ上陸スルヲ見タリ之レ唯一ノ
所爲ニ歸スルト雖モ河流ノ深淺ヲ案知シ地理ヲ詳悉スルニ
アラザレハ容易ニ爲スベカラズ

爰ニ於テ船客ハ一同コヤツク兵ノ漁船ヲ砂岸ヨリ抽出シタ
ル其剛勇ヲ稱讚シ旅客ノ便益ヲ與フル少クシザルヲ稱揚
シタルヲ以テコヤツク兵ハ其機ニ乘シ實地ニ服役シタル亂
軍接戦ノ實況ヲ率テ平旦一偏ニ之ヲ演述シ意氣揚々ノ際一
老兵ノクワイエヲ戰守ニ就テ未タ記録ニ存セザル一秘事ヲ
演スルヲ聞ケリ猶交際ノ道ニ據テ親シク之ヲ探打スルヲ得
ハ此平素一偏ノ軍卒ニ就テ一二ノ秘事ヲ撥發スルヲ得ベシ
之ニ就テ猶復編ニ論スル所アルベシ蓋シ船中ノ行旅ハ知己
ト不知己ヲ問ハス苟モ竹語ノ通スルモノハ共ニ世事ヲ談レ
テ有益快樂ノ時ヲ消費スベシ煙囪ニ賭立シテ陸地ノ風土ヲ
詳觀スルニ優レリトス

船中ノ災害

ドン河ノ航路ニ於テ漸船ハコサツク兵一隊ノ外猶無敵ノ無
貨乗客ヲ乗セシムルヲ以テ其狂暴ナル一群ハ甲板上ニ盤居ス
ルヲ厭ヒ旅客ノ臥房ニ亂暴襲撃ノ災害ヲ蒙ルモノアリ此貪
欲ナル狡奴ハ英國ノ私立病院ニ使役スル看護人ト同種類ナ
ルベキヲ信スト雖ヒ萬物學ニ通曉セザルヲ以テ之ヲ判知ス
ル能ハス然レヒ人間ノ等級ニ就テ其所爲ヲ察スレハ必ス同
種類ナルヲ知ルベシ此等ノ人種ハ皆ナ名譽ヲ投棄シテ熱心
ト智力ヲ以テ一心ニ其目的ヲ達セントスル恐ルベキ怪物ナ
リト雖ヒ幸ニ其狡奴ノ襲撃ヲ免レタルヲ以テ其怪物ノ何物
ダルヲ知ル能ハス若シ船房ニ孤眠シタラシニハ必然狡奴ノ
侵襲亂入ヲ見ルノ災害ニ遭遇シタルベシト雖ヒ一旅客
ノ此災害ニ逢フザル如ク惘然トシテ終夜船房ヲ共ニレ怡モ

擁護スルノ状アリ又ハ被害者ノ哀訴ヲ聽納スルハ苟モ職務
上ニ關係スル事情アルカ如シ之ニ依テ幸ニ暴行ノ災害ヲ免
レタリト雖ヒ其事情ハ詳悉スル能ハス漸ク航路ヲ終リ河口
ノ「リスト」ニ着レ船長ニ請フテ獨船中ニ一泊センコトヲ求ム
船長容易ニ之ヲ承諾シ船中平穩ニシテ待遇常ニ與ナルナシ
遂ニ翌朝ニ至テ其事情ヲ詳悉スルヲ得テ抑翌朝船長ニ面
シ一夜安眠ノ謝儀ヲ演ヘントスルニ方テ一旅客ノ側ニ在テ
突然之ヲ中止スルアリ爾而微笑ヲ含ミ船長ニ謝スルノ事實
ニ反シ須クシ彼ニ謝スベキノ恩義アリトシテ稍傲然ノ風ヲ
攝シテ曰ク君不見船中ニ煙囪一隊ヲ卒ニ隊下ノ衆兵群ヲ爲
シテ船房ヲ襲撃スルヲ常トス故ニ旅客ノ船房ニ就テ其一團
ヲ分借スルヲ得ハ隊下ノ兵ハ皆ナ分配シテ靜謐ナルヲ得ナ

リ爰ナ以テ君ニシテ隊下兼兵ノ暴撃ヲ免レ俄然剛勇ノ所爲
ヲ見タリト雖ハ深ク其恩義ニ歸スルヲ知ルベシ其事實ノ信
否ハ之ヲ詳悉スルニ遠アラスト雖ハ之レ只一片ノ謝儀ニシ
テ交際上ノ禮節ニ歸スルヲ以テ船長ニ對スルモ其スベイン
士族ニ對スルモ均シシ職務上ノ恩義ヲ謝スルノコト

船中ノ風害

ノゾフ海ノ航海ニ於テ船房ノ臥床ニ風ノ災害ヲ爲ス猶一層
甚シヤヲ見タリ瀛船ケルア號ニ乗テ此航海ヲ爲シタル時ニ
當リ風ノ臥床ヲ襲撃スル甚シヤヲ以テ常ニ婦人ノ臥房ハ下
層ニ占ムルヲ例トスルモ之ヲ甲板上ノ船房ニ移シ旅客ノ船
房ヲ下層ニ更換シタルヲ以テ猶一層災害ノ甚シヤヲ見ツリ
一朝海上ヲ走ルモノアルヲ感シ安眠ヲ撥破シタルヲ以テ當

ニ之ヲ驅除スルノ方策ヲ計畫シ其再來ノ襲撃ヲ待ツ恰モ好
シ床下ニ在テ睡張ヲ動搖スルハ風ノ正ニ床上ニ登ラントス
ルヲ察シ氣息ヲ籠ノテ之ヲ窺フノ状ハ恰モ歌臺ニ於テ舞臺
ヲ狙撃セントスルノ時ニ於ルカ如ク百方計畫其機ヲ試ラザ
ルヲ圖リ風ノ正ニ臥下ニ座ヲ占メタルヲ待テ忽然騰起天井
ニ掛テハ一壁下ツテ床上ニ以テ襲スルモ猶逃走ノ生氣ヲ存
シテ逃逸シタルヲ以テ其偵察ノ及フ所輕重之ヲ知ルニ山ナ
シト雖ハ隣房ノ旅客其捕獲ニ依テ安眠ヲ撥破シタルヲ恨ミ
強テ再回ノ試撃ヲ請絶ス爰ヲ以テ復テ捕獲ヲ試ルニ山ナシ
隣房旅客ノ如キ風ノ襲撃ハ敢テ之ヲ堪忍スト雖トモ隣房ノ
風ヲ抛入スルハ荷々之ヲ堪絶スト謂フ抑風害ノ實況ヲ述ヘ
テ船長ニ稟訴スルモ更ニ益ナキヲ知ル甲板上一ニ於テ船長ニ

而シ旅客ノ爲メニ此鼠害ヲ排除セント欲シ恐ク事情ヲ述ヘ
テ辨解シタルト雖モ船長ハ其實況ヲ聞テ冷笑シテ曰ク嗚呼
如何トモ之ヲ防クノ方ナシ今創我能ク奇策ヲ施シ一鼠ヲ獲
クリト蓋シ念中ニ誘ヤ之ヲ壓殺シヌルナリ

旅館

目下露西亞ニ於テ鐵道運河ノ制度ニ就テ其開進ヲ要スルモ
ノ多クナリト雖モ衛生上ニ關シ旅館ノ組織モ亦其ノ之ヲ
改良セザルベカラズ然レモ此旅館ノ改良ハ敢テ急進實施ヲ
要スルニテアラズ漸ク常ニ實施ニ志ラザルヲ要スルナリ抑旅
館改良ノ要ハ館主ナ外國ヨリ移住シ其慣例ヲ移植スルニ在
リ俾價ハ能ク其職業ヲ教授セ第一ニ内地ノ旅客ヲシテ開化
社會ノ慣習ヲ知ラザムルヲ要ス露西亞ニ於テ其改良ハ漸ク

開進ニ赴ク勢アリト雖モ未タ充分ノ地ニ達スルヲ見ルハ前
途尙遠遠ナリト謂フベシ首府セントピートルズバルクモ都
モスコウ、オアソツ府ノ如クハ外人ノ常ニ居住スルヲ以テ既
ニ歐州西部ニ於ル旅館ニ比スハハモノアリ其他ノ地方ニ於
テモ稍見ルベキノ旅館ナキニアラズト雖モ歐州西部ヨリ鉄
道ヲ接シ直ニ露京セントピートルズバルクニ着スルヲ得ル
ノ前ニ於テ預メ其改良ヲ要スルモ亦タ少ナカリスト謂フ
ベシ蓋シ清潔ハ快愉ノ元素ニシテ之ノ充分ニ取用シ以テ快
快ノ得ルハ極メテ難事ニシテ其萬ノ價ヲ以テスルモ之ヲ買
辨スル能ハザルノ事情アリ

露西亞内地ノ旅館ハ其上等ナルモノニ於ルモ一種特別ノ風
習アリテ内地ノ旅客ハ敢テ之ヲ意トヒザルモ外人ニ在テハ

開通ニ赴ク勢アリト雖モ未タ充分ノ地ニ達スルヲ見ルハ前
途猶遠道ナリト謂フベシ首府セントピートルスバルグ書都
モスコウ、オアツサ府ノ如キハ外人ノ常ニ幅濶スルヲ以テ既
ニ歐洲西部ニ於ル旅館ニ比スベキモノアリ其他ノ地方ニ於
テモ稍見ルベキノ旅館ナキニアラズト雖モ歐洲西部ヨリ鉄
道ヲ接シ直ニ露京セントピートルスバルグニ着スルヲ得ル
ノ前ニ於テ預メ其改良ヲ要スルモノ亦タ少ナカラスト謂フ
ベシ蓋シ清潔ハ快愉ノ元素ニシテ之ヲ充分ニ採用シ以テ快
快ヲ得ルハ極メテ難事ニシテ巨萬ノ價ヲ以テスルモノ之ヲ買
辨スル能ハザルノ事情アリ
露西亞内地ノ旅館ハ其上等ナルモノニ於ルモ一種特別ノ風
習アリテ内地ノ旅客ハ敢テ之ヲ意トセザルモ外人ニ在テハ

本ク奇異ノ感覺ヲ起スモノアリ先ツ旅館ニ着スレハ各室ヲ
巡視シテ其價格ヲ求メ相當ノ一室ヲ定メテ其價格ヲ約スル
ニ方リ節儉ヲ主トシ館主ニ協議セシ其價ヲ減省スルヲ
得ルヘシト雖ハ協議ノ巧拙ニ依テ著シク價格ノ差異アルヲ
見ル然リ而モ其約條ニ就テ曖昧ノ疑点ヲ存スルナキヲ注
意セザルヘカラス抑英國ニ於テ馬車ヲ雇使スレハ馬ハ之ニ
附属スルヲ常トス此思想ヲ以テ露西亞内地ノ旅館ニ泊スレ
ハ太早ナル胸算ノ相違ヲ來スコアリ既ニ約條ニ依テ夜具一
式ヲ借受スルヲ認ムベシ爰ニ於テ館主ハ外國ノ事情ニ曉ラ
ス自國ノ慣習ニ依テ臥床並基ヲ備ヘ毛氈外套手巾等ノ如キ
附属ノ物品ハ旅客ノ隨意ニ任シテ之ヲ備ヘザルヲ以テ外人
ハ之ヲ見テ奇異ノ感ヲ生シ爾等物品ノ不足ヲ咎ムレハ館

主ハ却テ自國ノ慣習ニ依リ旅客ノ各自ニ之ヲ提帶スルヲ認
ムルヲ以テ之ヲ要スルノ事アルニ於テハ特ニ其價ヲ弁シテ
更ニ借受スルヲ得ルノ事

露西亞人ノ習慣

露西亞人ノ習慣ハ慣習ノ久シキヤ遠ハ感辟ト爲テ古來未ダ曾
テ知ラザルノ奇辟ヲ見ル抑露西亞人ハ共有ノ夜具ヲ使用ス
ルヲ嫌忌スルノ感辟ハ極メテ強情ニシテ恰モ吾人ノ他人ノ
衣服ヲ借用スルヲ厭フカ如シ露西亞生來ノ人ニアツザルモ
此感辟ヲ有スルヲ見ルアリ露西亞人ノ此感辟ヲ脱却シテ歐
洲同化ノ慣習ニ復シ單ニ不快ヲ感スルノ本性ニ歸スル能ハ
ザルハ遺憾ニ堪ヘザルナリ抑感辟ハ本性ニアツズ慣習自カ
ラ其性ト爲テ各種ノ奇辟ヲ生ス極メテ容易ナリト謂フ

旅中夜具ヲ提帶スルハ其不便想フベシト雖も熟ク之ヲ思ヘ
ハ思案外ニ在テ其不便ノ小ナルヲ知ルナリ抑露西亞ニ於テ
冬間臥床ヲ暖ムルヲ以テ常ニ提帶スル所ノ輕氈一片ヲ以テ
被金ニ充ツルニ足レリ外衾枕套手巾等ノ如キハ大抵之ヲ旅
袋ニ納メテ簡便ナルヲ覺エト雖も只稍大ニシ不便ナルハ袋
枕ノ重之ニ代用スルニ吸氣袋枕ヲ以テスレハ其臭氣ノ嫌忌ナ
ルヲ以テ能ク其用ニ適スルモノナシ然リト雖も露西亞人ハ
慣習トシテ旅中常ニ枕ヲ提帶スルヲ意トセス之レ目下鉄道
馬車道ノ設ケナキ地方ニ於ルカ如ク往時ハ瀛車又タハ馬車
ノ便利ヲ得タルヲ以テ内地ノ旅行ハ專ラ單一ノ乘車ニ歸シ
彈機製ニ基カザルヲ以テ車ノ運轉激動ヲ起スカ爲メ一大木
頭ヲ車内ニ備ヘ之ヲ以テ枕ニ充テ以テ旅客ノ傷害ヲ妨クト

謂フ其習慣ニ因シ今猶瀛車ニ乘テ旅スルモ露西亞人ハ必ラ
ス枕ヲ提帶スルノ風習ニシテ固辟ノ人ニアラスト雖も停車
場ニ男女皆ナ枕ヲ提帶スルヲ見ルハ恰モ吾人ノ旅中ニ在テ
帽套雨衣ヲ携帶スルニ彷彿スリ慣習ノ致ス所奇ト謂フベシ
蓋シ舊辟騎者ノ豪商ハ旅裝ハ更ニ提帶セザルモ枕袋ハ旅裝
ノ欠クベカラザルモノトシテ常ニ之ヲ提帶スト謂フ
又テ旅館ニ於テ館主ト協議ヲ了リ一室ヲ借受シタル後陪從
ナキモノハ家僕ノ來テ座右ノ周旋ヲ協議スルニ注意ヲ要ス
苟モ其深切ナルニ駭クベカク之レ費用四分三ノ締約ニ因
スルナリ抑露西亞ノ豪商ハ騎游遊情ノ風アリ常ニ家僕ヲ携
給シ座右ニ陪從シノ家事ノ周旋ニ供スルヲ以テ親ク座右ノ
事ヲ執ルハ夢ニモ之ヲ厭忌スルノ風習ナルニ因テ旅館ニ

於テルロ亦數名ノ家僕ヲ發ヘ家事周旋スルヲ以テ客室ニ報
鐘ノ備ヘアルヲ見ス又ク下層ニ音信ヲ通スル電信機傳話機
等ノ裝置アルヲ見ス之レ更ニ座ヲ起テ報鐘ヲ打テ導線ヲ曳
ノ徒勞ヲ省キ一呼家僕ヲ呼喚スルノ簡便ニ歸スルト聞ク蓋
シ騎奢遊惰ノ風ハ往時露西亞ニ於テ一般ノ風習ヲ爲シ家商
ハ常ニ餘分ノ家僕ヲ養給スルヲ以テ旅行ノ際ハ必ス二三ノ
家僕ヲ陪從シ猶タウレクム入テ雇使スルモ其費用ハ僅少ニ
シテ却テ自事ヲ便スルノ優レニ如カスト爲ス
抑露西亞人ハ極メテ騎奢ノ風ナリレト雖ドモ時世ノ變遷ニ
際シ十五年前ウガオス皇帝其騎奢ノ風俗ヲ憂ヒ之ヲ矯正セ
シカ爲ノ更ニ一令ヲ發シテ家僕ヲ養給スルヲ禁シ給料ヲ支
給シテ之ヲ雇使スルノ新制ヲ設ケ又ク汽船海車ノ乘客ハ其

乗券ヲ一名一葉ニ限リ陪從者ノ無賃乘客ヲ禁シタリト雖モ
當時其改革ノ令ヲ遵奉スルモノナク人民ハ其反對ノ方向ニ
走リ今猶衣服ヲ整ルニ他人ノ補助ヲ待テ親カタ其勞ヲ執ヲ
嫌忌シ家僕ヲ養給シテ座右ニ陪從セシムルモノアリ若シ其
禁令ヲシテ當時之ヲ遵奉スルニ至ラレバ四下正ニ家僕ヲ
省減シテ人民ハ大抵家事節儉ノ風習ニ歸スルヲ見ルベシ然
リト雖露西亞人ハ舊慣ニ感染スルノ深キヲ以テ容易ニ之ヲ
脱却スル能ハス舊慣ノ久シキ其跡ヲ絶ハ極メテ難事ト謂フ
ベシ故ニ旅館ニ於テモ毎朝家僕七頭ノ情眼ヲ喚起スル大聲
ハ席下ヲ傳フテ室内ニ反響スルヲ聞ク
又ク自朝自歸ノ事ヲ了リ喫茶ヲ命スルハ露西亞ノ風習ニシ
テ家僕ヲ呼ク喫茶ヲ命スレハ家僕ハ茶所ヲ提帶スルノ有無

ヲ問フ爰ニ於テ敏捷ノ旅客ハ直ニ家僕ニ命シテ之ヲ購ハレ
ム而シテ湯錫ヲ提出シ來ルヲ以テ隨意ニ之ヲ調和シテ飲ス
ルヲ辨ベシ若シ飲食ヲ要スレハ之ヲ旅裝ニ取テ隨意ニ之ヲ
飲食スルモ家僕ハ敢テ關スヤナシ只不便ナル水盃ヲ以テ茶
碗ニ代用シ指頭ヲ以テ茶匙ニ代用スルニアリト雖も二十カ
ベツク或ハ二十五カベツクノ價ヲ家僕ニ與フレハ茶器一式
ハ容易ニ之ヲ購フベシトス家僕ノ私利ヲ養ヒ主家ノ利益ヲ
顧ミサルスノ如シ抑此等ノ慣習ハ目下開進ノ日ニ於テ數々
日ニ改良ニ歸スベキハ數年ヲ期シテ待ツヘシト雖も今爾歐
洲西部ノ外人ハ昔テク聞見ノ及ハザル地方ニ於テ上等旅館
ニ之ヲ見ルナリ

道路

露西亞ニ於テ舊慣ハ大抵其舊態ヲ保存シ依然トシテ各地方
ニ存在スルヲ見ルベシ特ニ内地旅行ニ就テ最モ多クナリト
ス抑鐵道建設ハ二十年前ヨリ太ヒニ其工事ヲ振起シ漸ク開
進ノ勢アリト雖も未ダウラル山ヲ越ヘテ「シヌウラル」ノ廣大
ナル地方ニ至リ得ス此地方ハ極メテ廣大ニシテ英國ヨリモ
稍大ナルモノアリト雖も荒漠ニシテ古來未ダ漁笛ノ聲鳴
ニ驚駭セラレタルナシ道路ハ萬ニ依テ依然古態ヲ保存シ露中
部地方ニ於ルモ「マカダム」地方ノ如キハ數百里ノ廣原ヲ旅ス
ルニ一物ノ之ニ接スルモノナシ

露西亞ニ於テ人民ノ勤儉ヲ信用スルハ至レハ早晚蘇國山地
ニ於ルカ如ク關欄外ノ大岩ニ彫刻シタル土民ノ揭示文ヲ見
ル「アルベ」其文ニ曰ク爰ニ此道路ノ未ダ成ラザルノ前ニ

於テ此峻道ヲ見ルモノハ天ヲ拜シテ無難ヲ斷リタルナリ英國ノ博士之ヲ以テヒベリア人ノ所爲ニ歸ス抑露西亞内地ノ旅行ニ於テ人民ノ動議地方ニ於テ之ヲ判決スル能ハザルノ事情ハ須ラシク地方便宜ヲ計リ復權令ニ依テ之ヲ審判スルベキヲ感スル數次ナリトス其真情ハ恰モ佛人ノ道路修築ニ熱心シテ之ニ苦慮スルノ事情ト一般ニシテ目下露西亞ニ於テ都テ道路ハ天然道路ノ種類ニ屬シ一ノ之ヲ修築セタルモノヲ見ス古來修築ヲ加ヘタルモノハ只軌道修築ノ一事ニシテ之レ軌道ノ沈退ニ依テ車輪ノ運轉スル能ハザルヲ以テ不得止ノ工事ニ出テ單ニ密線ニ沿ラテ漸線ヲ布設シタル簡略ノ工事ノミ道路廣大ナルヲ以テ其工事ハ亦タ容易ナルヲ知ルベシ密線ノ位置ハ之ヲ説明スル能ハスト雖モ未タ道路ノ修

辦ニ就テ役夫ノ現ニ服事スル地方アルヲ見ス蓋シ露西亞ノ道路ハ天然ノ變化ニ歸シテ人力ノ補助ヲ要セザルモノト謂フベシ

橋梁

道路ハ之ヲ連接シ橋梁ハ之ヲ遮斷スルトシテ世人ハ之ヲ對比スルモ露西亞ニ於テヒベリア人ノ警諭ノ密旨ヲ發見スルヲ得シリ前年愛蘭議院下院ノ演說ニ於テ寺院ハ愛蘭二黨ノ人民ヲ分ツ橋梁ナリ抑橋梁ハ通常遮斷スルヨリ寧之ヲ連接スルノ用ヲ爲スモノタルノ主義ヲ演ヘ鐵路ノ大鳴采ヲ得タルアリ若シ此鐵路ヲシテ露西亞ノ内地ヲ巡回シ其演說ヲ爲サシメハ寂然トシテ其喝聲ハ見ル能ハザルベシ露西亞ニ於テ橋梁ハ連鎖ノ川ヲ爲スヨリモ却テ閉鎖ノ川ヲ爲スノ事情

多々ナルヲ以テナリ土俗ノ隘ニ曰ク橋梁ヲ架スルハ天威ニ背クナリト抑橋梁ノ安全ニ徒歩シテ之ヲ沙ルサ得ルモノハ敢テ之ヲ論スルニ足ラスト雖も爰ニ汚泥ノ一帯ヲ以テ其兩端ヲ遮斷シ塵ヲ埋メテ之ヲ沙ルニアラザレハ橋梁ヲ過キテ前岸ニ達スル能ハザルニ際シテハ地理ノ案内ヲ知ル極メテ緊要ニシテ驛夫ハ能ク之ヲ案知スルナリ正ニ之ヲ沙ラントスレハ驛夫ハ馬ヲ警メテ固ク安全ナリ又々何ソ危険ノ憂アラシク方コ沙ルベシ既ニ橋梁ニ達スレハ結構大破ニ歸シ殆ソト腐朽ノ狀ヲ呈ス橋上所々ニ大破ヲ存シ驛夫ハ沙々馬ヲ警メ中心天ヲ祈テ馬ヲ獎勵シテ曰ク敢テ恐懼スル勿レ天帝ノ助クルアリ其聲河橋ニ沙テ反響スルヲ聞ケハ心忪惶々殆ト生氣ナシ之レシユウ河ノ寒流ニシテ此遊遊ノ地方ニ在テ何ノ

時カ其修繕ノ幸福ヲ見ルノリアラシヤ驛夫ハ常ニ之ヲ沙ルニ慣レテ平意橋ヲ過キ驛馬ニ鞭ヲ驅逐シ去ルト雖も之レヲ沙ルノ苦慮ハ想フベキナリ初メ河岸ニ下リテ泥土ノ一帯ニ入り橋頭ニ達シテ驛馬ノ躍起スルヲ見レハ馬車ハ既ニ橋上ニ在リ漸ク橋上ヲ過レハ單ニ橋板ヲ並列シテ動搖自在ナルヲ以テ驛夫ハ馬ヲ警メ沙々之ヲ隨ニ大破ノ間ヲ沙リ又々泥土ノ一帯ヲ過キテ前岸ニ達スルヲ得爰ニ於テ初テ蘇生ノ感ヲ生ス恰モ騎隊ノ初メテ軍陣ニ臨ミ凱歌ノ時ニ於ルノ感アリ蓋シ慣行ハ平心ヲ養成スルノ一方便ナルヲ以テ此橋梁ノ如キモ常ニ之ヲ沙リ數百回ノ多キニ至レハ遂ニ驛夫ノ如ク之ヲ沙ルニ平意ニシテ神色自若更ニ屈心ノ狀ナキヲ得ルベシ

驛路

露西亞ニ於テ近年大改革ニ從事シタル道路ノ制ニ就テ其成
績ノ察ヲザルヲ見レハ實ニ駭然ニ堪ヘズト雖モ抑故アルナ
リ之レ專シ露西亞ハ人民ノ稠密ナリザルニ歸スルト雖モ又
々各般ノ事情アリテ特ニ實際道路建築ニ需用スル石材堅石
ヲ供給スルニ困難ナルノ事情アリ又々能ク之ヲ建築スルモ
寒威ノ酷烈ニ依テ之ヲ安全ニ保存擁護スルハ極メテ難事ト
謂フベシ

抑露西亞ニ於テ鐵道線路ノ布設ナキ地方ノ旅行ヲ爲ハ各般
ノ方法ニ據ルナリ
乗合馬車ハ箱馬車ニノ之ヲメシメテト謂フ木棍ヲ並行ニ
備ヘ車箱ヲ設置シ馬三頭ヲ以テ之ヲ曳ク棍軸ノ一部ニ鐵材

ヲ横ヘ以テ左右二馬ヲ繫クニ供ス棍軸ノ頭部ニ於テ馬舌狀
ノ木頭ヲ突起シ導綱ヲ受クルノ用ニ供ス其上部ニ於テ一鈴
ヲ懸ク南部地方ニ於テハ二個或ハ三個ヲ懸クルト謂フ其聲
鈴々トメ一英里ニ亘ル鈴ノ要タル或ハ狼ノ嗥聲ヲ防クニア
リ或ハ馬車ノ衝突ヲ避クルニアリニ說孰レモ理アルニ似タ
リ心學者ヲノ謂ハシメハ惡魅ヲ排除ノ爲メナリト謂フ其要
領ハ非常ヲ覺テ衝突ヲ防クノ二點ニアルベシ道路ハ軟土質
ニシテ馬車ハ輻聲ヲ發セス御者ハ常ニ左右ヲ監視セザルモ
鳴鈴鈴々其聲ノ連綿トシテ絶ヘザルヲ聞ケハ自カリ衝突ヲ
避クルノ方便ニシテ能ク其用ニ適スルニ足ルベシ蓋シ乗合
馬車ハ能ク實用ニ適スト雖モ馬裝ノ奇異ナルヲ以テ恰モ古
代戰車ノ想ヲ爲スナリ正面ノ馬ハ直而起頭導綱ヲ以テ之ヲ

押へ左右ノ二馬ハ隨意ニ服ルヲ得ルモ馬ニ對シテ依倚アル
ニアリズ御者ノ目的ヲ確定スルノ爲メナルベシ故ニ右馬ノ
躍ルハ嚴ニ之ヲ注意シテ將ニ躍ラントスルヲ見レハ鞭ヲ風
靡シテ之ヲ警メ以テ疾驅ヲ促スヲ見ル
驛遞馬車ハ線路ノ各所ニ於テ十英里乃至二十英里ノ距離ヲ
隔テ驛遞局ヲ設置ス各局幾多ノ車馬ヲ備へ旅客ノ便ニ供ス
而シテ旅客ノ驛遞馬車ヲ雇使セントスルモノハ先ツ相當ノ
官衙ニ就テ免許証券ヲ請求スルナリ其証券ハ請求人ノ姓名
旅行ノ事由需用ノ馬數ヲ指テ國鐵ヲ鈴シタルモノニシテ之
ヲ請求スルハ僅ニ税額ヲ納ムルヲ要ス之ヲ以テ道路修繕ノ
費用ニ充ツト謂フ其他ノ費用ハ都テ各所ノ驛遞局ニ就テ
直ニ之ヲ支弁スルナリ此免許証券ヲ以テ驛遞局ニ至リ馬車

ヲ雇使スルニ通例三頭ヲ要スルヲ常トス然レモ輕略ヲ主義
トシ外見ヲ憚ラザレハ二頭ニシテ足レリ馬車ハ大抵乗合馬
車ニ類似シテ大同小異ナリト雖モ箱馬車ニアラズ船底馬車
ニシテ車内ノ一隅ニ木匡アリ之ニ一東ノ椅ヲ填メタルハ枕
袋ノ代用ニ供スルナリ車内ハ狹隘ニシテ風袋内ニ在テ脚ヲ
延ヘントスレハ御者ノ屢下ニ違ス風雨ノ際ニアラザレハ風
袋ハ常ニ之ヲ開放スルヲ可トス車内ニ在テ運動ノ不便ヲ覺
ユルナリ途上障害アツテ風袋ヲ掩ハザルヲ得ザルノ際ニ於
テ屢頭上ニ一塵ヲ受クルノ畏害ヲ見ルアリ
驛場ヲ出發スルノ際輕操ノ所爲ナキヲ要ス然ラザレハ途上
愁嘆ニ堪ヘザル事情ヲ見ルベシ到底驛馬ハ瘦馬ニ歸スルヲ
以テ一見慙然ニ堪ヘザルノ瘦馬ト雖モ此際怒氣ニ乘シ暴言

ヲ吐露シテ馬醫スルコト勿レ識誰ノ罪ヲ免ルベカラス平穩ニ
其情實ヲ演述シ更換ヲ請求スルニ如カス幾多ノ馬ニ就テ相
當ノ馬ヲ撰拔スレハ一時間十二英里乃至十四英里ヲ驅逐ス
ルヲ得ヘシ而シテ之ヲ御スルノ道ヲ知ルモノハ能ク疾驅シ
テ之ヲ走ラシムルヲ得ルト雖モ之ヲ驅逐スルニ輕鞭ヲ加ル
モ馬ハ敢テ其命ヲ用ヒス只鞭ヲ風靡シテ之ヲ促セハ能ク之
ヲ疾驅シテ走ラシムルヲ得ルナリ抑驛馬ヲ驅逐スルノ慘狀
ヲ論スレハ或ハ甘言ヲ以テ其疾驅ヲ獎勵シ或ハ馬醫ヲ以テ
之ヲ驅逐スルヲ見ル其愛撫スルノ狀ヲ見レハ恰モ小鳩ノ愛
撫ヲ受クルカ如ク其叱咤スルノ狀ヲ見レハ恰モ獵狗ノ束縛
ヲ受クルカ如シ其愛憎ノ關スル所之ヲ知ルニ由ナレト雖モ
一種特有ノ權力アツテ之ヲ感スルニ歸スルト謂フベシ

旅中要心

驛遞馬車ヲ雇使シテ内地旅行ヲ爲スモノハ先ツ驛馬ヲ撰採
スルヲ第一ノ注意ト爲スベシ抑驛馬ハ体格強壯ニシテ能ク
整頓シ筋骨緊實感性强大コシテ能ク長途ノ驅逐ニ堪忍スル
モノヲ撰ムヘシ而シテ驛遞局ニ宿泊スルノ際ニ在テハ能ク
之ヲ愛護スルノ要ヲ見ルベシ腕内ニ單ニ板床ヲ備ルノコト
ルヲ以テ須ク枯草一束ヲ枕ナ床上ニ撒布シ以テ一片ノ思
慮ヲ與フルヲ可トス通常下等ノ驛遞局ニ於テハ僅ニ旅客ノ
爲メニ一室ヲ備ヘ腕内ノ如キ特ニ板床ノ設ケナキアリ蓋シ
腕内ニ板床ノ設ケアルハ驛馬ノ安眠スルヲ得テ疾驅ノ勞ヲ
省スルコト足ルベシ然リト雖モ夜間常ニ安眠ヲ障害セリルハ
一二回ニ及フト謂フ之レ夜間驛馬ノ更換ヲ要スルノ際驛夫

ハ庭内ニ至テ家僕ヲ呼ヒ茶ヲ喫シ烟ヲ吹キ剛々談笑ノ更ニ
安眠者ニ關セザルヲ以テナリ又マドレ河ノ航海ニ於テ見
ルカ如ク鼠ノ庭馬ヲ侵襲スルアリト雖モ復タ爰ニ其詳細ノ
狀況ヲ論述スルヲ欲セザルナリ今爰ニ之ヲ論說セザルハ脚
編者ノ主旨ニ反ルト雖モ暫ク之ヲ擱キ專ラ後來旅客ノ爲メ
ニ有益ナル事情ヲ察テ之ヲ論述セント欲スルノニ抑一身ノ
自衛ニ多事ナルノ際ハ宣戰ト中立ノ權限ヲ紊ルノ懼レアル
ヲ以テ萬國公法ノ原理ニ基キ中立ノ權理ヲ破リ爭端ヲ開ク
ノ要ヲ避ケンカ爲メナリ惡事ノ惡事タルハ素ヨリ之ヲ知ル
ト雖モ惡事ヲ以テ暗殺ノ害ハ之ヲ判決スルヲ得ザルヲ知ル
例ヘハ鼠ノ爲メ安眠ヲ損破セツレ怒氣未タ収メザルノ際ニ
於テ猶枕邊ニ遺棄スルヲ見レハ一擊之ヲ毆殺セントスルノ

怒氣ハ焉シ能ク之ヲ抑制スルヲ得ンヤ若シ其毆殺ヲ遠クル
ニ至リハ實ニ無益ノ殺生ト謂フベキナリ例令鼠ノ枕邊ニ遺
棄スルモ同ソ其害ヲ來スノ事アリヤ
又タ内地ノ遊遊ナル小都府ニ於テ旅館ノ設ケアルヲ見ルト
雖モ其上等ニ屬スルモノハ通常下等ノ驛遞局ニ劣ル猶幾等
ナリトス其汚穢不潔ノ狀ハ萬物學校ノ臭洩ヲ極メテ高尚ノ
學力ヲ有スルニアリザレハ微馬ノ笨力ヲ以テ之ヲ論述スル
能ハザルナリ
又タ露西亞内地ノ旅行ニ於テ地方ノ方言ヲ知ル極メテ緊要
ナルヲ見メリ蓋シ佛語及ヒ獨逸語ニ通曉スルモノハ露國內
地ノ旅行ニ於テ更ニ不便ヲ見スト謂フト雖モ大都及ヒ本道
線路ニ屬スル地方ニシテ其他ノ地方ニ於テハ充分ニ通スル

能ハス抑露西亞人ハ歐洲西部ノ人民ノ如ク外國語ニ通曉セザルヲ以テ學士社會ノ人ト雖モ能ク外國ノ語ニ通曉シ融暢自在水ヲ鏡面ニ流ス如ク之ヲ談話スルモノアルヲ見ス只一二ノ外國語ニ通曉スルヲ見ルノモ農民ニ至テハ更ニ外國語ニ通曉スルモノナク且ツ地方ヲ巡回シテ旅中面接スルモノハ大抵農民ナルヲ以テ之ニ就テ事情ヲ探打セントスレハ其方言ニ通曉セザルヲ得ス今將ニ其方言ヲ學ハントスレハ僅ニ書籍ニ就テ之ヲ讀下シ得ルノ言語ヨリモ猶多數ノ言語ヲ學ヒ得ザルベカラシニ遊遠ノ地方ニ於テ多少其方言ヲ異ニスルモノアリト雖モ大抵同一ノ方言ヲ使用スルヲ以テ學士社會ノ人ヨリモ談話簡短ナリ蓋シ外國語ヲ使用スルハ上等社會ノ人ニ歸スルト謂フ

冬季ノ旅行

露西亞ニ於テ冬季ノ旅行ハ夏季ノ旅行ニ比レハ却テ快樂ヲ覺ユルモノアリ蓋シ降雪ノ初ニ於テハ道路一面ニ雪ヲ以テ滿タシ平坦ナルヲ以テ機車ノ之ヲ過ルモ起伏變動ヲ見テナク平面ヲ轉滑シテ恰モ湖上ノ船ノ如シ機車ノ疾走スル其速カナル馬モ亦タ其重荷ヲ負擔スルヲ知ラザルカ如シ然リト雖モ此美觀ハ連續シテ之ヲ彌久ニ存スル能ハズ忽然道路ヲ横接シテ谷間ヲ生スルヲ見ル其現象ノ原因ハ之ヲ知ルニ由ナシ又タ之ヲ土民ニ問フモ明解スル能ハス然リト雖モ其現象ノ原因實況如何ニ關セズ俄然山谷ト小丘ヲ生シテ道路ニ羅列シ山谷斷續シテ長ク全路ニ直リ機車ニ乗テ之ヲ過ルハ險阻上下シテ機車ノ轉覆ヲ恐ル恰モ怒海ニ漂流スル小船ノ

將ニ覆没セントスルノ狀ニ彷彿タリ其危難ノ狀想フベキナ
リ
又々冬季ノ旅行ニ於テ不快ヲ感スルハ大氣ノ全ク沈退スル
ヲ以テ寒威益酷烈ニ達スルナリ然レモ未ダ不快ヲ感スルナ
シト雖モ俄然烈風ノ起ルニ逢ヘハ驗温器ハ容度以下ニ下リ
非常ノ低度ニ達ス開放ノ櫛車ニ乘テ其不快ヲ感スル亦々聞
フベカラズ鼻頭ハ霜化シ手ヲ以テ之ヲ蔽フモ更ニ感覺ヲ有
スルナシ櫛車ニ風袋ノ裝置ナキニ因スルノ疑ナキアラスト
雖モ又々之ヲ裝置スレハ恰モ船中ニ在テ海患ヲ感スルカ如
ク同一ノ感覺ヲ生スベシ且ツ多少風威ヲ擁護スル功用ヲ見
ルベシト雖モ又々櫛車ノ轉覆ニ逢ヘハ之カ爲メニ雪中ニ在
テ旅裝ノ下ニ壓伏セラルノ災害ヲ見ルベシ寧開放ノ櫛車ニ

於テ雪中ニ拋出スルノ安危ナルニ如カス
抑氷界地方ノ旅行ハ重裝ノ毛皮ヲ以テ身ヲ擁護スルヲ要ス
ト謂フ英國人ハ之ヲ輕信シテ能ク寒威ニ堪忍スルヲ自負ス
ルト雖モ露西亞人ノ重裝ヲ觀フケル時ニ於テ英國人ハ通常
ノ大套ヲ以テ能ク其寒ニ堪ヘタルヲ見ル數次ナルヲ以テナ
リ然リ而シテ知少ノ時間ハ能ク之ヲ堪忍スルヲ得ルベシト
雖モ數日ニ亘リ遠路ノ旅行ハ馬ヲ能ク之ニ堪ユルヲ得ンヤ
正ニ實驗ニ依テ之ヲ知ルナリ今其實況ヲ細説シテ般繼ニ供
シ後者ノ覆轍ヲ戒メント欲ス
千八百七十年ノ終リ千八百七十一年ノ初ニ際シ一日騎隊ノ
屯營ニ赴キ知友ヲ訪ハント欲シ多天晴朗ノ日ヲトシテ
ゴ
ロツド府ヲ發出セントスルニ際シ率ニ一友人ノ同伴ヲ得タ

リ輕裝ノ毛衣ヲ纏ヒ面胞ヲ掩テ極メテ輕裝ナルヲ見テ同僚
ノ之ヲ警戒スルアリト雖ヒ里程僅ニ十英里ニ過キス能ク其
寒威ニ堪ユベキヲ思惟シ其忠告ヲ謝絶シ遂ニ途ニ上リ其後
ニ至リテ其忠告ヲ採用セザルヲ恨ムルナリ抑北風ノ猛威ヲ
倭シ河岸ニ沿フテ北行スルニ北風而テ衝キ驟温器零度三十
度以下ニ降り其寒威ノ猛烈ナル實ニ謂フベカラザルノ忠告
ヲ感スルヲ以テ半途ニテ歸家セントスルニ同僚ニ對シ信
義ヲ失スルノ懺悔ニ堪ヘス爰ヲ以テ貴激精ヲ勵シ里程四分
ノ三ニ達スルヲ得タリ此時一農婦ニ逢フ其狀橈車ヲ見テ曠
然事ヲ報スル如シト雖ヒ更ニ之ヲ解スル能ハス然リト雖同
僚ハ之ヲ了解シタルヲ以テ亦タ駭然之ヲ報シテ曰ク鼻頭ノ
脱落シヨルヲ報スルナリト爰ニ於テ曠然駭然忽テ鼻頭ヲ探

レハ或ハ全部ノ脱落ニ歸スルヤ又タ其一部ノ脱落ニ屬スル
ヤ之ヲ知ル能ハスト雖ヒ尋常ヨリ脹大ニシテ堅硬ナル恰モ
木頭ノ如ク復テ更ニ感覺ヲ見ルナシ而シテ同僚ノ忠告ニ依
テ橈車ヲ下リ雪ヲ以テ鼻頭ヲ摩擦スレハ今猶鼻頭ノ保存ニ
ベキヲ知り之ヲ爲サントスルニ復々之ヲ爲スノ精力ヲ有ス
ルナシ毛衣ハ亂レテ胸部ヲ裸露シ寒威ノ中心ニ侵染スルカ
ト疑フ終ニ絶倒シテ復々感覺ヲ失スルニ至レリ其後ノ實況
素ニ之ヲ知ルニ由ナシト雖ヒ漸ク蘇生スルニ至テ奇異ノ
室内ニ在リ軍人ノ看護スルヲ認メ軍醫ノ令復々蘇生シテ生
命ニ危險ナキト雖ヒ疫熱ヲ患フベキヲ報スルヲ聞ケリ然リ
而シテ軍醫ノ診斷ノ如ク其後ニ至テ疫熱ヲ患フルナシ只右
手ノ緊縮シテ數日ニ亘リ鼻頭ノ霜傷ヲ厭フテ外見ヲ憚ル殆

シト十四日間ニ及ツノニ依テ考レハ極寒ノ猛威ヲ侵ス
ハ死ヲ致スノ極樂ニシテ蘇生ノ患苦ハ地獄ト謂フベシ其患
苦ノ狀ハ今將ニ無期ノ長夢ニ就カントスルモ其身ヲ忘レテ
醫師ノ診察ヲ謝絶セントスルニ至レリ地獄患苦ノ狀想フベ
キナリ

露西亞ニ於テ春秋二季ノ間ハ内地ノ旅行ヲ爲スベカラス抑
冬間積雪ノ方ニ融解シタル後ニ於テ長途ノ旅ニ上ルモノハ
困難極メテ大ナルヲ見ルベシ多季ノ初ニ於テハ酒一層ノ困
難ニレテ秋季ノ間ニ蹂躪シタル道路ハ霜成ノ爲メニ氷結シ
テ石塊ヲ爲ス以テ降雪ノ爲メニ之ヲ平均スル能ハザルナリ

旅中災難

長途ノ旅行ニ於テ宏極無事ナルハ太々稀ニシテ多少不時ノ

災難ニ遭逢スルアリ爰ニ一例ヲ舉グベシ

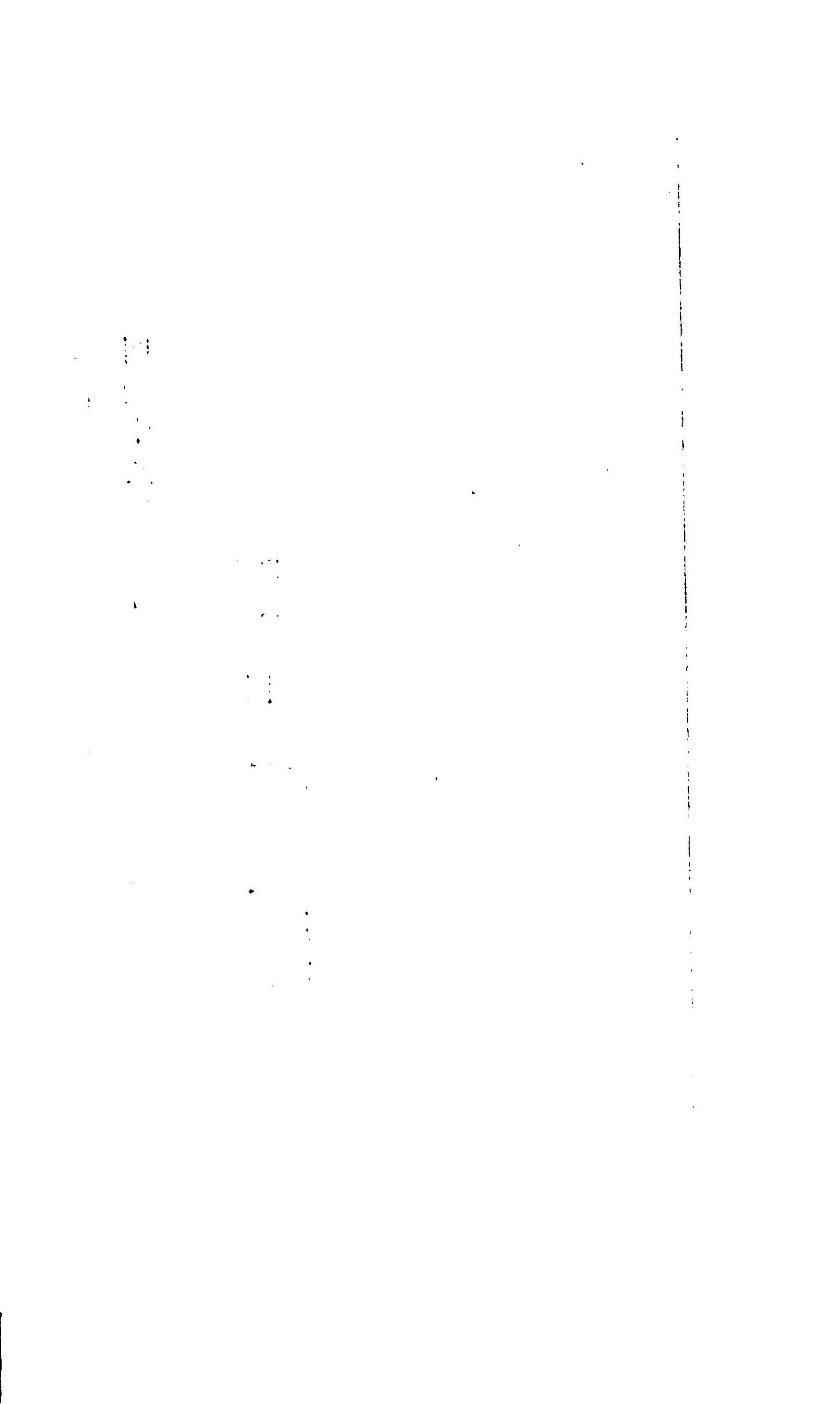
一日早朝コウカサツ山麓ノ小都府メイコツツニ着シ驛遞局
ニ就テ驛馬ノ更換ヲ求ムルニ方リ驛夫ハ唐突不敬ノ答ヲ爲
シ今方ニ一馬ノ豫備ヲ存スルナレ共狀剛弄ニ歸スルヲ察シ
驛遞局ノ章程ニ從ヒ驛馬出納ノ簿冊ヲ検査スルニ午後四時
ニ至テ驛馬ヲ得ルベキヲ檢出シタルヲ以テ規則數條ヲ指示
シテ驛夫ヲ詰責スルニ成規ニ違背スルヲ以テス之レ常ニ他
ノ各所ニ於テ不正ノ驛夫ヲ處スルニ能ク其目的ヲ達スルヲ
以テ猶此驛夫ニ於ルモ亦タ之ニ屈服スヘシト雖モ豈計ツン
此驛夫ハコサツク人ノ容貌偉大ナル狡奴ニシテ面貌狂惑ノ
相ヲ全備シタリト謂フベシ早朝早已ニ火酒ニ酔泥シテ酒醉
アルベキヲ察知ス其規則一編ヲ執リ輕忽之ヲ看過シテ卓上

●投棄シ巨臂ヲ下レテ枋間ニ挿シ沈着決意ノ狀ヲ呈シテ曰ク驛馬ハ明日更ニ之ヲ得ルベキナリ其聲濁々躍ノ如シ愛ニ於テ同僚ノ一友ハ急激ノ性ハシテ能ク部野ノ方言ニ通シ馬番者戰ニ長スルヲ以テ一場ノ音戰ヲ開クニ至リ驛夫モ亦ヲ放蕩無頼ノ強敵手ナルヲ以テ音戰數刻ニ亘リ勝敗ノ段ヲ見ル能ハス遂ニ換馬ヲ他ニ需ムルノ拙策ニ出テ音戰漸ク靜謐ニ歸スルヲ以テ復々後難ノ生スベキ由ヲキヲ思索スルノ際突然更ニ一場ノ難事ヲ提起シ遂ニ不慮ノ災厄ヲ蒙ルニ至レリ抑驛夫ハ他ニ換馬ヲ需メタルヲ認メ驛馬ヲ提帶シ來テ需用ニ供セント欲シ強談暴議驛馬局ヲ經スレテ換馬ヲ得クルヲ訴フ若シ其暴議ヲ拒絕スルニ至レハ百方妨害シテ旅途ニ上ルヲ得ス爰ニ於テ又々更ニ一場ノ音戰ヲ開キ圓蹄前

●倍シテ語氣ノ慘劇ニ亘ルヲ察シ同僚ノ援兵ト爲テ横擊ヲ試シ奇策ヲ以テ勝ヲ博クセント欲シ短銃ヲ執テ之ヲ指示シ曰ク復々爾輩ハ共ニ之ヲ停ムベシ敵手ハ猶未ダ劍道ニ熟達セザル如シ一擊之ヲ下スノ方ヲ知ンザルナリ若シ此馬番ヲ以テ露西亞人ヲ挑ムニ至ラハ必然忽チ奮激シテ快戦二三回ニ及ツヲ見ルベシ今此敵手ハ敢テ抗戦ヲ要セス更ニ一擊ヲ試ムルノ色ナヤヲ以テ幸ニ一場ノ大勝ヲ制シクハト雖も敵手ハ又ク秘計ヲ以テ其敗ヲ償フノ計畧ヲ希圖シ遂ニ警官ノ判決ヲ得テ謀殺ノ冤罪ヲ蒙ルニ至レリ然リ而シテ上等警官ノ明斷ヲ仰カント欲シ地方警察長官ニ照會シテ生憎當時出府ニ際スルヲ知ル猶之ヲ追跡シテ其府ニ赴クニ決ス而シテ之ヲ處スルニ於テ同僚ハ旅裝ヲ擁護シテ此地ニ留リ將ニ旅程

ニ上ヲソトスルニ方リ同僚ノ一友ハ短銃ヲ遺托シ去クソコ
需ム然リト雖モ妄リニ之ヲ濫用シテ不時ノ災害ヲ醸サソコ
ヲ恐レ之ヲ謝絶スト強ク強ク之ヲ需ムルノ切ナルヲ以テ終
ニ其需ニ應シテ遺托シ去レリ而シテ其旅行ヲ了リ驛邊局ニ
歸着ノ際群衆之ヲ同テ轟然タルヲ見ル果シテ同僚ノ爭闘ヲ
釀シ敗戦ニ歸シタルヲ察シ直ニ同ヲ衝テ室内ニ至レハ黒烟
雲ヲ籠メテ現況ヲ認ムルニ由ナシ暫ク硝烟ノ散スルヲ待テ
熟ク其現況ヲ察スレハ家具旒裝ハ散亂狼籍タルヲ見ルト雖
モ幸ニ一ノ死休ヲ認メザルヲ悦ヒ又ク其一隅ヲ見レハ強敵
ハ援兵二卒ヲ率ヘテ踏立スルヲ認ム又々他ノ一隅ヲ顧レハ
同僚ハ孤立シテ敵手ニ對スルヲ見ル暫クアツテ警察官ノ
來テ事實ヲ糾彈スルニ會ス猶其黨與ヲ糾明シテ遂ニ謀殺ノ

罪科ニ判決シ同僚ノ主謀ハ歸スルヲ以テス百方其冤ヲ弁護
スルト雖モ復々之ヲ弁解スルノ方ナキヲ如何セン之ヲ慮ス
ルノ狀百事素ヨリ曖昧ニ歸スルト雖モ復々他ニ之ヲ遊シル
ノ道ナシ只暗窓ノ下ニ幽囚セシレテ思救ノ時ヲ待ツベキノ
ヲ天道焉ソ善惡ノ別ナカワソ天帝恒ニ善者ヲ擁護スルノ俗
隨ニ背カス此際偶然不慮ノ天助ヲ得テ事情全ク反逆シ晴天
白日ノ身ト爲ルヲ得メリ驛車ノ轟聲門外ニ響キ忽チ一官吏
ノ室内ニ入ルヲ認レハ之レ則チ地方巡察ノ判官ニシテ今正
ニ驛馬ノ更換ヲ要スルナリ判官事ノ重大ナルヲ觀察シ法廷
ニ列シテ審理スルノ狀ヲ見レハ公明無偏且ツ其義理ヲ弁解
スルノ速カニシテ今警察長官ノ事ヲ處スル般漫シテ曖昧ナ
ルカ如キニアラズ正ニ其事實ニ就テ法理ヲ明晰シテ曰ク更



東 京 圖 書 館				
和書門	類	申二函	一 架	一 冊
			號	

東 京 圖 書 館

東 京 圖 書 館

第二編

北地旅行

地勢

今歐羅巴事情ヲ論スルニ方リ地方ヲ先ニシ都府ヲ後ヨスルハ
 神故アルナリ先ツ此編ニ於テハ北部地方ノ事情ニ就テ論説

スベシ

歐州露西亞ノ地勢ヲ察スレハ之レヲ折半シテ各其風土ヲ異
 ニスルヲ認ムベシ北部地方ハ山林沼澤ノ地ニシテ水利ヲ疏
 通シ河湖沼澤ノ間ニ無數ノ耕田ヲ有ス南部地方ハ膏腴ノ耕
 田ニシテ山林砂漠ノ点々星散スルヲ見ル蓋シ西境北緯五十
 度ニ起リ東北ニ五リ北緯五十六度ニ於テツリル山脉ニ入り

以テ其經界ヲ分ツ

旅行ノ目的

露西亞北地ノ巡遊ハ今回露國巡遊ノ大主眼ニシテ露京滞在
數月間其情制シ難ク内地旅行ニ於テ佛語日耳曼語ニ通曉セ
ザルハ極メテ不便ナリト雖トモ露語ハ單一ニシテ實地ニ之ヲ
學フ得ルベキヲ察シ斷然旅程ニ上テ朋友會員ニ接スレハ佛
語或ハ英語ヲ以テシ婢僕社會ニ接スレハ日耳曼語ヲ以テス
蓋シ農民ニ接スルハ只一回ニシテアイヌボヌナキナリ馬車
ヲ御スル農民ニシテ之ニ應接スルハ露語ヲ要スト雖モ只僅
ニ數字及ヒ二三ノ談話ヲ要スルノコ

農民應接

露語ヲ學フ方便如何ニ就テ之ヲ一友ニ協議シ先ツノゾイロ

ゾニ赴キ其家ニ寄寓スニ村落ニ知識ニ紹介ヲ得テ直ニイバ
ノツカノ村落ニ赴キ其知識ヲ訪ハント欲シ一朝モスコウ鐵道
停車場ニ至テ馬車ヲ雇使スルコト片言ヲ以テ露語ヲ談話スル
ハ復テ能ク之ヲ爲シ得ルト雖モ恰モ西班牙人ノ佛語ヲ談話
スルト彷彿タルヲ以テ御者ニ應接スルハ英語ヲ以テシ毎語
段落ヲ隔テ其意ノ通シ易カリソヲ欲ス爰ニ於テ問テ曰ク
イバノゾカ ホウルス ヌウケン

抑疑問ノ意ヲ表スルハ語氣ノ濁音眼臉ノ運轉ヲ以テス御者
ハ其疑問ヲ反問シテ曰ク

イバノゾカ

蓋シ農民ノ疑問ヲ反問スルハ旅客ニ對シテ應接スルノ際思
考ノ時間ヲ竊ム方便ニシテ他國ニ於ルモ亦タ然リ爰ニ於テ

答辨シテ曰ク

「イバノフカ、ナオナオ」

御者ハ暫ク思考シテ頭ケ傾ケ稍其意ヲ通シタル如シ

ル—アルス

聲ニ應シ問フテ曰ク

ハオノチイ

御者拱手、接頭判断ニ苦慮スルノ状アリ之レ問題ノ錯雜ナル

ニ因スルヲ察シ深ク思索ニ沈ミタルヲ認め慈母ノ愛兒ニ談

話スル如シ丁寧反復之ヲ諭スニ如カザルヲ知り穩カニ前首

ヲ反復スレハ斷ク其意ヲ得ク

「ア、ツ、ウ、ユ、フ」

爰ニ於テ十ル—アルハ太ク高價ナルヲ以テニル—アルヲ

可ナルヲ告テ手ヲ振り左右シテ其需要ナキヲ示シ直ニ停車

場ニ入ラントスレハ八ル—アルニ減價ヲ報スト雖トモ敢テ

意ニ介セス去テ停車場ノ室内ニ入ル其狀恰モ外交上國土ノ

儀與價金ノ辨價ヲ協議スルカ如ク其ニ價格ノ注意ヲ要シテ

猶三四ノ協議ニ及ヒ常ニ返滅ノ功ヲ見ルト雖も終ニ協議ヲ

放棄シ去テ復々關セザルヲ恐縮シヨリ其際恰モ好シ室内ニ

來テ旅裝ヲ提帶シ去ルヲ認め初メテ最後ノ協議ニ價格ヲ議

定シタルヲ知レリ既ニ四ル—アルノ價格ニ約シテ旅程値ニ

二十英里ニ過キツレハ常價ニ比シテ稍過分ナルヲ知ルト雖

も途上道路ノ困難ナルヲ見テ初メテ知ル價格ノ協議ニ御者

ノ價ヲ待シテ多少ノ困難ヲ杖ヲシメタルヲ抑録兩邊綿道路

泥濘雨水滿溢シテ或ハ河流ニ似タリ或ハ池沼ノ如シ風獵人

ニアラザレハ道路ノ稱ハ附加スベカラシク旅程半途ニ至ル間ハ恰モ上古水陸混漕ノ時ニ於テ今猶遺存スルノ思想アリ其際馬車ニ在テ身体ノ平衡ヲ維持シ旅裝ノ被害ヲ憂フルノ注意ハ極メテ大ナリト謂フベシ熟ラ思フニ一種ノ船車ヲ製シテ水馬ヲ以テ之ヲ沙ルヲ可トス遊シ船車ノ製ハフオトリル氏ノ意匠ニ基キ田船ノ製法ヲ取捨シテ有用輕便ノモノヲ得ルベキナリ

馬ハ瘦馬ナリト雖モ道路ノ水中ヲ疾驅シテ馬車ハ天蓋馬車ナリ「アラカ」ト稱シ四輪車ニシテ運轉極メテ平穩ナルヲ覺ユ只發車停車ノ際ニ於テ僅ニ轟鳴ヲ認ムルノ「結構」強弱ニノ險難ノ地ニ在テハ破壞ノ恐レナキニアラスト雖モ御者ハ能ク其適用ノ度ヲ察知シ敢テ車ニ意ヲ留メス付テ車輪ノ泥中

ニ脱却シ去ルノ際ニ於テ之ヲ泥中ニ提出シテ車軸ニ納メ復タ更ニ注意ヲ要スルヲ見ス馬ハ長途ノ疾驅ニ堪ヘ正午ニ際シテ一村落ニ至リ爰ニ初テ一掘ノ水ヲ與ヘ一時ノ快樂ヲ取シメタリ

村落

此村落ハ木造ノ家屋道路ノ兩邊ニ并列シテ前面ヲ以テ道路ニ面ス道路ハ地盤ヲ下ル一英尺ニシテ比隣ノ間ハ空地ヲ設ケ板塀ヲ以テ之ヲ圍ミ道路ニ面ス木造ノ大門ヲ設ケ落外ノ一家ニ至テ馬車ノ突然停ルヲ認メ御者ニ問フニ旅館ヲ以テスレハ朋友ノ聲ヲ認メタルヲ以テ人馬共ニ懇親ノ狀ヲ見レハ友人ノ家ニ着シタルヲ察ス馬能ク之ヲ知ルナリ家屋ノ一方ニハ板塀ヲ設ケ農具ヲ納ムルニ供ス其他木屋馬廄ナリア

ルガレ土民ノ多少農事ニ開化シタルヲ見ルベシ

農家

抑感覺ヲ起スノ強大ナルモノハ奇怪ト饑渴ニシテ其農家ニ
着シ家内ノ案内ヲ問ハスシテ先ツ戸口ニ至レハ小柵ヲ設ケ
テ多間横壁ノ豫防ニ備ヘ内部ノ第一室ニ至レハ空所ニシテ
左邊ノ一隅ニ通路一口ヲ存ス之ヲ過ヤテ奥室ニ至レハ方形
ノ小窓ニケ所ヲ設ケ道路ニ面ス右邊ノ一隅ニハ天井ノ近傍
ニ一柵ヲ架シテ神佛ノ圓畫ヲ掛ケ之ニ供スルニ奇異ノ燈明
ヲ以テ又々左邊ノ一隅ニ於テハ壁上ニ沿フテ一大暖爐ノ
直立スルヲ認メ煉化石ヲ以テ築キ白壁ヲ以テ塗飾ス煉爐ノ
上端ヨリ左邊ノ壁上ニ沿フテ一大柵ヲ架シ幅六英尺乃至八
英尺ニシテ之ヲバクナト稱ス家族ノ寐床ニ充ツルト謂フ家

具ハ壁上一長椅子ヲ備ヘ粗造ノ大桌子等ナリ此際突然煉爐邊
ノ床上ニ人聲ヲ認メテ之ヲ顧レハ頭髪ハ中分シ鬚髯ハ鬱蒼
タルヲ見テ正ニ人面ヲ認ムルト雖モ其何物タル判知スル能
ハス暫時之ヲ熟視スレハ頭ヲ揚ケ拜スルノ狀ヲ認メ答禮ス
レハ頭ヲ病メ不快ノ狀ヲ報ス此際初メテ最前ノ御者タルヲ
認メ病者ノ容体ヲ尋問シテ暫時談話ノ際一婦人ノ室内ニ來
ルヲ認メ家婦人ナルヲ察シ今正ニ饑渴ニ堪ヘサルヲ以テ飲
食ヲ執ラント欲シ家婦ニ依頼シテ鶏卵黒麵包牛酪ヲ得ルベ
キヲ知リ之ヲ需メントスルニ其應接ノ困難ナル想フベキナ
リ方ニ分業ノ法ニ基キ各調理ヲ分擔シテ家婦ハ火水ノ事ヲ
執リ鶏卵ハ自カラ調理シテ其意ニ適ヒンコトヲ欲スルナリ暫
クシテ供饌ノ整頓スルニ至レハ敢テ佳肴ニストラスト雖モ頗

ル美味ヲ感スルナリ茶糖ハ之ヲ旅裝ニ提帶シ鶏卵ハ半熟ニシテ能ク其意ニ適シ麵包ハ砂糖ヲ混合スルト雖モ咬破シテ容易ニ之ヲ食スルヲ得ルナリ牛酪ハ常ニ食卓ニ供用セザルカ如ク全ク腐敗ノ食用ニ適セス牛乳ハ太ク美味ヲ登ニ蓋シ鶏卵麵包牛乳茶ハ巡遊中ノ常食ト爲レ露西亞ニ於テ農民ノ調理ノ最モ佳者ト稱スルモノハ醋菜木瓜クハスナリト雖モ曾テ其美味ヲ感染セザル旅客ニ在テハ更ニ稱讚スルニ足ラスト謂フベシクハスハ麵包ヨリ醸造シタル麥酒ノ一種ナリト謂フ

農民ノ慣習

露西亞人ハ寒熱共ニ其極度ニ堪忍スルノ氣力ヲ存スルナリ御者ハ家主ニ陪從シテ夜會劇場ニ至リ苟モ寒ニ歸リ又之

ヲ迎フルノ思想ヲ憶カス又々農民ハ毎四時間眠ニ就クノ風習ニシテ極寒ノ時ト雖モ安眠スルハ伊太利チイアルニ於テ乞馬ノ炎天ニ午睡スルト恰モ彷彿アリ其貪眠ノ狀ハ北極地方ノ熊ト同類ナリト雖モ只熊ト其性質ヲ異ニスルハ極熱ニ違フテ自若トシテ變異ヲ感覺スルナシ然リ而シテ季候ノ變更ハ頗ル之ヲ稱愛スルト雖モ寒熱共ニ復テ其變更ヲ促スノ風アリ

蒸氣浴

農民ハ每週蒸氣浴ニ入浴スルヲ常トス此慣習ハ宗教上ノ舊慣ニ歸因スル所以ニシテ魂魄身体共ニ浴水法ニ依テ清淨潔白ニ爲スニアクザレハ身体汚染ノモノハ寺院ニ入ルテ許サズト謂フ一週一回ノ制規ニ依テ土民ハ土曜日午後ヲ以テ沐

浴ノ日ト定メ浴後ハ身体ヲ清潔ニ存シテ日曜朝拜ノ終ルヲ
待ツナリ大抵一村落ニ共有ノ浴室ヲ設ケ建築極メテ粗造ナ
リトス又々各家浴室ヲ有スル村落アリク麴包竈ヨリ蒸氣ヲ
引用スルノ装置ナリ一階ヲ抑此風習ハ後世子孫全ク其風俗
ヲ見聞セザル後亦ヲ得ルニアワザレハ無窮ニ傳ヘテ絶ユル
期ナレ試ニ一浴ヲ執ルニ腦血擾亂シテ殆ント生命ノ危険ナ
ルヲ感ス爰ニ於テ浴丁ニ告クルニ苦惱ノ情ヲ以テスレハ絶
倒笑ナリ曰ク今正ニ初期ニ際セリ爾其困難想ヲモヤナリ依テ
入浴ヲ中止スルニ至レリ遊々農民ハ入浴ノ際屢雪中ニ出テ
身体ヲ旋轉スルヲ常トス露西亞ノ俗話ニ之ヲ評シテ曰ク露
西亞ノ養生法ハ獨逸ノ致死法ナリト

冷水浴

バガノ宗教ヲ奉スル村落ハ今猶古代カニハルノ世ニ流布シ
タル羅馬宗教ノ遺風ヲ存シ奇異ノ法衣ヲ服用スルノ風習アリ
リ而シテ其法衣ヲ製タルモ金ク廉俗ノ罪ヲ消滅スルニ足リ
ス多少惡魅ニ侵サレテ魂魄ヲ穢スノ災厄ヲ避ルトシテ其惡
魅排除ノ方法ハ冷水浴ニ浴スルヲ常トス抑冷水浴ノ方法ハ
氷塊中ニ一孔ヲ開キ宗教ノ法式ニ依テ十字架ヲ坑中ニ沈メ
并水式ノ祈禱ヲ爲シテ身ヲ冷水ノ坑中ニ投スルナリ曾テブ
オルガ河岸ニ於テ二少年ノ其奇事ヲ執行シタルヲ見タリ其
氏ノ驗温器等度以下ノ寒威ヲ侵レテ其身ヲ傷ツノ災害ナキ
ヲ認メタリ之レ慣習ノ致ス所ニシテ其慣習ノ波及スル所ハ
素ヨリ宗教ノ區域ニ歸スルト雖モ既ニ常人ハ其理ヲ了解シ
テ若シ此苦業ヲ執ルニ於テハ實際多少ノ功德ヲ認メザルベ

カヲビト謂フ

露西亞ノ男女像メ此苦業ヲ執ルノ要ヲ認メハ先ツ法衣ヲ披
川スルノ前ニ於テ再三再四熟考スベシ蓋シ惡魅ハ上古清明
ノ世ニ在リト雖也後世澆季ノ世ニ於テハ大ヒニ其威徳ヲ損
セリ今猶無智ノ少年ハ妄リニ歸化シテ法衣ヲ披用スルト雖
也浴水式ノ苦業ヲ見テ感情更ニ常人ニ異ナルナシ抑惡魅ハ
法王ノ歎トシテ早晚特權ヲ失フベキナリ

着村

今回ノ旅行ハ途上泥濘ノ困難アリト雖也道路險惡ナラザル
ヲ以テ前回ノ旅行ニ比スレハ旅程ヲ了ルノ速カナルヲ覺ニ
途上御者ノ談話ヲ聞クニ沿道山林ニ猿熊麝鹿ノ住スルト謂
フ抑イハノチカ村落ニ着シ直ニ僧正ノ家ヲ訪フテ寄宿セン

ト欲スルト雖也早已ニ夜間ニ及ヒタルヲ以テ比隣ニ旅館ヲ
需メントスルモ之ヲ得ルニ由トク御者ニ協議シテ之ヲ處ス
ルノ如何ヲ以テスレハ御者ハ暫ク思考ノ後チ一大家屋ノ燈
殘燈ヲ點スルモノアルヲ認メ其家ヲ訪フチ一泊ヲ得タリ蓋
シ知識ノ僧正ニ依テ其家ニ寄宿スルノ目的ナリシト雖也師
家ノ故障アリテ其目的ヲ達スルヲ得ヌ家事ノ貧困ニノ食事
ノ粗惡ナルヲ以テ謝絶スルノ事情ニ歸スレハ散テ之ヲ厭フ
ニシテ素ヨリ粗食ニ慣用ノ荷モ之ヲ憂フルニ是ソス只師
家ニ陪從シテ教ヲ奉セント欲スルノ目的ナリト雖也不得止
ノ事情アツテ終ニ師家ニ寄宿スルヲ得サルナリ
抑僧家ハ家族ノ多キヲ常トス之レ世上一般ノ事情ニ歸シ其
家族ノ増加スルニ從テ家産ノ富ハ増殖スル能ハス故ニ家具

ノ準備ハ餘裕アラザルノミナクニ一女子ノ學校ニ在テ近
シ歸リテ豫備ノ一室ヲ充セタルヲ以テ師家ニ寄寓スルヲ得
ス今又師家ノ勤メニ依テ一農家ノ空室ヲ借受スルト雖モ益
火燭光ニ苦學セテ大成ヲ期スル身ニ在テハ寓居ヲ撰フノ要
ヲ知ル師家ニ陪シテ常ニ座右ノ談話ヲ聞カント欲スルヲ如
何セン

露國事情第三編

北地巡遊

イハノフカ村落

風土

此村落ハ北地ニ在テ他ノ村落ニ比シテ風光頗ル佳ナリ農家
ハ一直線ノ道路ニ沿フテ兩側ニ並列シ質素ノ風アリ一大寺
院アリ屋上ニ尖塔ノ起立スルアリ又タレナイザレ式ノ鐘樓
アリ敢テ美麗ナルニアラズト雖モ道々之ヲ望メハ特ニ夕陽
日没ノ時ニ於テ頗ル美觀ヲ覺ユ寺院ノ前面ハ牧野ニ轉
蜿蜒小流ノ疏通スルアリ地勢右ニ上リテ小丘ニ村長ノ住家
アリ右松鬱蒼トシテ半面ヲ蔭蔽シ家屋ノ結構ハ方形コノ白

壁ヲ以テ塗抹シ前面ハ油漆ヲ以テ裝飾ス前庭ニ花園ヲ設ケ
左方ハ村落ニシテ一大寺院ヲ有シ風光頗ル英觀ナリ落外ニ
至レハ楡樹ノ道路ヲ隔テ並列スルアリ暢快ナルヲ覺フ其極
端ニ至レハ萬頃ノ耕田ニシテ杉林ノ蔭布スルヲ見ル抑數百
英尺ノ丘上ニ在テ之ヲ望メハ村落其麓ニ位シ萬頃ノ耕田池
々トシテ天際ニ接シ鬱々タル杉林ノ蔭布スルヲ見ルベシ猶
一層ノ美觀想ソベキナリ

村長

此村落ハ曾テ寺領ニ屬シタリト雖モ千八百六十四年二世カ
トリン女帝ハ寺領ヲ廢シテ國領ニ歸シ其後女帝ハ此地ヲ學
ヲトルコノ戰爭ニ於テ勳功アル一老將ニ賞賜シタリ以來當
世カル族ノ領地ニ歸シテ前代ノ領主ハ田舎ノ居住ヲ愛シ領

地ノ制度ニ盡力勉勵シタルヲ以テ千八百二十年乃至四十年
間ニ於テ一大寺院及ヒ村長ノ家屋ヲ建築シタリト謂フ之ニ
反シテ當代ノ幼主ハ村落ノ住居ヲ厭忌シ露京ニ出テ官海ニ
遊ヒ頗ル佛國ノ遊戲ヲ嗜ミテ都テ都府ノ風習ヲ愛慕スト謂
フ當主ハ日耳曼人ニシテカル族ノ名籍ヲ蒙リ領内ノ制度ヲ
代理スガルカルイナト稱ス

此村落ノ年譜ニ就テ只凶作牧疫火災等ヲ登錄スルノミニシ
テ更ニ重要ノ事情ヲ搜索スルヲ得サルナリ抑萬一豐作ノ年
ニ逢ヘハ一村落衆ヲ紀念祭ノ祝事ヲ舉行スルヲ以テ爲メニ
巨額ノ元費ヲ捐スト謂フ又古來口碑ニ傳ヘテ怪説妄談ヲ
信用スルモノアリ今其一例ヲ舉クレハ天狗ヲ恐怖スルノ事
情ニシテ其意ニ戻リ怒氣ニ觸レハ成ハ大樹木ヲ挫折レ成ハ家

内ニ亂暴墮擊ヲ見ルト謂フ或ハ附會ノ説ヲ爲シテ時々山林ノ樹頭ニ現出シ或ハ山法主ニ擬テ諸國ヲ巡遊シ以テ人民ヲ濟度スト謂フ

チエウトニツク人及ヒスレボニツク人ノ別

當主カルカルイナハプロシアノ一村落シヨンホウセンニ生レ賤民ノ一子ニシテ二十年前露西亞ノ土豪ハ農業開進ノ要ヲ知り各其開進ノ方法ヲ協議シ日耳曼人ヲ雇使シテ領内ノ農事ヲ代理セシムルニ議決シイバノフカノ土豪モ亦ク其一人ニシテ日耳曼ノ知友ニ紹介ヲ得テ當主ヲ雇使シ相當ノ俸給ヲ與フルノ締約ヲ了リ當主ハ當時日耳曼ホウヘンヘイムノ農學校ヲ卒業セテ其幼名ヲカルシエドト呼ヒ露西亞ニ來テ直ニ其名ヲ改メ現今ノ名稱カルカルイナト稱スルニ至レ

リ其改名ノ事情ハ自己ノ情願ニ因ルロアラズ露西亞ノ風習ニ歸スルト謂フ抑露西亞ノ慣習トシテ常ニ族姓ヲ唱フルヲナク宗教ノ名稱ト親父ノ名稱トヲ執テ之ヲ混用スルヲ例トス故ニ自己ノ名稱ヲニコラスト呼ヒ親父ノ宗教名ヲイバント唱フレハニコラスイバント稱レ又ク姉妹アリテ其名稱ヲマリイト唱フレハマリアイバント呼フナリ

曾テ當主カルカルイナ露西亞ニ着シ其名ヲカルシエツトト呼ヒ當時一少年ナリシト雖モ專ク領内ノ農事ヲ改良シテ從來ノ農具ヲ廢シ更ニ學術上ノ原理ニ基キ農事ノ大改革ヲ爲サントスルモ露西亞ノ隸奴ハ懶惰ニシテ日耳曼農民ノ如ク教育ノ普及セザルヲ以テ之ヲ勸諭シテ獎勵スルモ敢テ責激振起スルノ色ナク虚喝ヲ以テ呵責スルモ敢テ恐縮畏服スル

ノ狀ナシ嚴罰ヲ以テ懲戒スルモ屈服懺悔ノ色ナシ或ハ慚情
ノ不注意ニ依テ器具ヲ破損シ或ハ野心ノ惡戯ニ出テ器具ヲ
破壞スルモノアリ爲メニ改良ノ目的ヲ達スル能ハスト謂フ
抑カルカルイテハ生來過激ノ人ニアラスト雖モ野心懺悔ノ
露人ニ對シテハ其命令嚴肅ニシテ之ヲ奉スル嚴格ナラザレハ
之ヲ處スルニ苟モ寬恕スルノ情ナク嚴刻ニ之ヲ處スルヲ以
テ隸奴ハ表ニ從順ノ色ヲ呈シ常ニ命令ニ抗抵違背スルノ狀
ナシト雖モ内ニ野心ヲ秘藏シテ表ニ遵奉ノ狀ヲ呈シ慚情惡
戯ヲ以テ私怨ヲ報酬スルノ風アリト謂フ之レヲユウトコッ
ク人トスレホコア入ノ會合ニ於テ必ラス隱謀煽殺ノ惡戯ヲ
見ルノ端因スル所以ナリト謂フベシ蓋シ露國ノ隸奴ハ舊領
主ノ簡單ナル舊制ニ心服シテ土民ノ監督ニ服膺スルヲ懺悔

スルノ情アリ土民ノ監督ハバルモストルト稱シ常ニ隸奴ヲ
處スルニ於テ溫順ナルニアラス萬領主モ亦ク時々怒氣ニ乘
リテ嚴罰ヲ以テ呵責スルノ時アリト雖トモ監督ハ舊儀ヲ破
ルヲ欲セス庶免ニ係ル瑣小ノ事情ハ之レヲ厭辭シテ常ニ寬
假スルノ事情アリ舊領主ハ常ニ厄難ヲ救濟シテ之レヲ愛撫
スルノ情實アルヲ以テナリ露西亞農民ノ俗誌ニ之ヲ評シテ
虛喝アレハ亦ク必ス救助アルベシ抑當主カルカルイテハ之
ニ以シテ農民ヲ處スルニ愛情ハ全ク之ヲ放棄シテ之ヲ順ニ
ルナシ制度ハ苟モ寬恕スル所ナク虛喝ト慈愛ハ兩ナカラ之
ヲ制度ノ外ニ投棄シテ偶慈悲ノ感情ヲ發スルハ只廢人ノ復
々世ニ立ツベカリザルニ歸スルト謂フ土民ヲ御スルモノハ
常ニ堅強ヲ以テシテ能ク事業ヲ執テ勞役ニ服スルモノハ通

常ノ職務トシテ敢テ賞揚スルナシト謂フ其民ヲ慮スルノ殺
急得失ハ孰レカ是ナリ孰レカ非ナルヲ知ラズト雖も殺急折
衷シテ能ク其中庸ノ方法ヲ得ルニ庶幾シト謂フベシ

隸奴解放

千八百五十九年隸奴解放令發行ノ日將ニ近キニアラントス
ルヲ察知シ「カルカルイナ」ハ其事情ヲ切論シテ曰ク國土必ス
廢滅ニ歸スベシトス農民ノ憤情ナルハ之ヲ實踐ニ徵シテ明
瞭ナリ眼前領主ノ笞杖ヲ受クルモ敢テ憤起勉勵ノ色ナキヲ
認ムベシ今其領主ノ保護ヲ脱却シテ全ク之ヲ廢棄スルニ至
ラハ進退維極ヲ復メ如何トモ自カワ之ヲ處スルノ道ナシ抑
禍福ノ直接ニ關係スル事情アツテ滿胸燃ル如ク百方苦慮ス
ルノ切迫ナルニ際シ新令ノ條規ニ基キ資産ヲ分賦シテ土民

ノ生産ニ供給スルノ日ニ至ラハ殆ント資産ノ一半ヲ損失ス
ルノ損害ヲ見ルニ至ルヲ察知スレハ精神益狂乱シテ遂ニ過
激ノ暴論ニ陥リ其制度ノ天理ニ戻リ其所爲ノ不正危険ナル
ヲ攻撃シテ之ヲ世論ニ訴ヘ之レ只土民ノ嗜好ヲ厭カシメ舊
主ノ恩義ヲ忘却セシムルノ實踐ヲ見ルノヨナリトシ低ニ敬
令頒布ノ日ニ至レハ曖昧ノ處分ニ歸レ墮斷テ私セント欲シ
テ土民ノ新令ニ不滿ヲ懷キ之ニ心服スル能ハストシテ爲メ
ニ租稅幾分ノ免除ヲ哀訴セシムルノ奸計ニ出テ百方計畫成
ハ勘論ノ方便ヲ以テ之ヲ誘導シ或ハ誓約ノ奸計ヲ以テ之ヲ
誑誘ニ陥レ或ハ虚喝ヲ以テ威迫シ之ヲ屈服セシメントスル
モ遂ニ徒勞ニ歸シ猶又奸計ヲ案出シ其田ヲ占有シ舊ニ依テ
土民ヲ勞役スルノ奸策ヲ執リ特ニ一令ヲ出シテ曰ク舊ニ依

テ依然舊主ニ隸シ更ニ新令ノ出ルヲ待ツヘシ土民ハ其哀訴
ヲ擯斥シテ曰シ今日復ク舊主ニ隸シテ勞役ヲ執ルノ義務ナ
キヲ謝絶ス爰ニ於テ法庭ニ哀訴シ多少ノ功償ヲ見タリト雖
ニ爲メニ當年ノ收穫ヲ損シテ産田ノ損害ヲ見タリト謂フ
其後事物ノ漸ク開進スルニ從ヒ農民ハ自營ノ道ヲ維持スル
能ハズ租税ノ收納ニ困難ヲ見ルニ至リテ遂ニ相當ノ給料ヲ
得テ舊主ノ勞役ニ服スルヲ諾セリ抑其間二年ハ貸借險約ヲ
主トシ諸費ヲ支辨シ餘裕ヲ以テ露京ノ幼主ニ幾分ノ資金ヲ
贈與スルヲ得タリト謂フ故ク富有ナルニアラズト雖モ舊時
隸奴ヲ發給シタル日ニ比スレハ却テ家事簡易ナルヲ覺ユル
ナリ只山地ノ耕作ニ勞スルハ稍難事ト謂フベキナリ蓋シ農
民ハ自由ノ開化ニ進歩スルヲ知クス遊惰飲食ヲ嗜ムノ風習

ハ前日ニ陪從シテ更ニ一層ノ遊惰ヲ極ムルト謂フ之ヲ雇使
ノ一喝ヲ喫スレハ忽然去テ復タ勞ヲ執ラス爾後爲メニ勞役
ヲ謝絶スルニ至ル今又土民ヲ督役スルノ一策ヲ案シ丁重反
復懇々之ヲ勸諭セテ勞役ヲ執ラシムルノ強迫方便ニ出ルノ
外ナシ農民ハ牛馬ヲ牧場ニ放逸シ山林ノ薪料ヲ竊取スルハ
益敵撻ヲ極ムルト謂フベシ

法庭

法庭ハ村落ヲ距ル六英里ノ地ニ在リテ往返殆ント一日ノ時
間ヲ費ヘシ抑此法庭ハ治安裁判所ニシテ農民ノ勸解ヲ審理
スルノミ刑事ハ之ヲ判決スル能ハス法庭ニハ賄賂ニ依テ免
職ノ法官代官人ト爲テ四邊ヲ流竄シ農民ヲ術ツケ山訴ノ得
失ヲ密議シ其論議ノ便宜ナルヲ聞ケ農民ハ訴事ヲ依托スル

ニ至レハ被告召換ノ順序ニ及ヒ被告ハ三十英里乃至五十英里ヲ距ルノ地ニ在テ某日何時其法庭ニ出庭ノ命ヲ得テ當日定期ノ時ニ出庭スレハ判官未ク出庭ナク群衆ハ門前ニ踏立シテ門丁之レヲ守ルノミ門丁ニ就テ開庭ノ時ヲ問ヘハ唐突答曰ク不可知事情也猶一時ヲ過キ書記ノ出庭ヲ認め問答前同斷ニ歸テ次ニ判官ノ出庭アツテセイタグセイタス連語シテ過クルヲ認め之レ直チニ開庭ヲ報スルナリ次テ二判官ノ出庭アリテ判官悉皆出庭ニ及ヒタリト雖も判官ハ閉室ニ在テ烟ヲ吹キ新事ヲ談シ暫時ニシテ出庭ニ至レハ稍高堂ニ席ヲ占メテ背向ニ聚座シ掩フ漸ク訴事審理ヲ起スニ至レハ他人ノ訴事ヲ聽聞スルモ亦タ一與ト謂フベシ方ニ順次ニ進シテ席前ニ進メハ陪官ハ審案ヲ調査シテ法規ニ對照比例シテ

取捨判斷スルヲ認め正ニ判決ニ至ントスルカ又タ一日ヲ徒費スルヲ愛ソルノ際忽然判官ハ會議室ニ退出スルヲ認め暫クシテ訴事ノ上等法院ノ決議ヲ經サルベカリザルヲ知り遂ニ露京上等法院ノ決議ヲ經テ他ノ法庭ニ移シ再審ヲ得ルニ至レリ
爰ニ於テカクカルイナニ忠告シテ曰ク既に訴事上等法院ヲ經テ再審ヲ得ルニ至レハ必然掠奪ノ罪科ヲ免ルベカリズ然リト雖も同氏ハ敢テ之ヲ意ト爲スノ色ナク何ソ苦慮スルヲ川ヒソ自カク之ヲ慮スルノ方便アリトス牧馬ニ放逸シタル農民ノ牛馬ハ之ヲ捕ヘテ幽囚シ農民ノ請求ヲ待テ弁償セシムルナリト謂フ然リ而シテ寧ロ危險ノ策ニ歸スルト謂フベシ法官ヲ此地ニ移スハ安全ノ處置ニアリザルナリ斷カハ聞

シ露西亞ノ法官ハ日耳曼代理ニ對シテ嚴格ニ處スルト謂フ
敢テ關スル所コアリザルナリ蓋シ露西亞ニ永住スルモノハ
能ク其事情ヲ察知スベシ盜難ニ逢フト雖モ黙ノ之ニ抗敵ス
ル勿レ都テ閉口沈黙スルヲ良策ト爲ス苟モ之ニ抗敵スルコ
至レハ暗窓一月ヲ咏シテ不慮ノ災厄ヲ蒙ルベシ然リ而シテ
少年判官ハ皆テ道德學校ノ主義ヲ執ルヲ知リヌヤ

道德學校

カルカライナハ道德學校ニ就テ主義ヲ論述シテ曰ク抑此學
校ハ道德學ヲ教授スト雖モ露西亞人ノ真理ヲ誤解シテ之ヲ
濫用スルニ至リハ一大障害ヲ生シ殊ニ刑法ニ關シテ一大改
革ヲ見ルベシ舊制ニ依レハ刑法ハ極メテ單一ニシテ只危險
ノ惡漢トシテ世人ノ交際ヲ謝絶シ世間ノ惡評ト交際ノ謝絶

ニ歸スルト雖モ新法ニ依レハ舊俗ノ弊ニ歸スルト謂フ蓋シ
校主ハ同化黨ノ主領ニシテ熱心家ナルヲ知レリ近村ニ住シ
テ壓迫ノ制度ヲ厭忌シ的々主義ヲ實行シテ自由ノ主義ヲ擴
張スト謂フ抑校主ハ之ヲ維持スルヲ務メ村長之ヲ破ラント
謀ル頗ル一大敵手ト謂フベシ百方之ヲ防禦スルノ策ハ極メ
テ智謀策略ヲ要セザルベカリヌ特ニ六條三略ニ據ルノヲナ
ラズ名將シヨモニヲ聘使シテ謀主ト爲スヲ要スルナリ
抑事業ヲ擴張シテ盛大ヲ期スルハ其目的ヲ達スルモノ少シ
ト雖モ理論上ヨリ論スレハ此學校ノ組織ニ就テ未ダ完全ノ
真理ヲ備ヘザルモノアルヲ認ムベシ一般人民ノ公益ニ關シ
テ多少慈愛ノ心情ヲ養成セザルベカクザルナリ人民ハ素日
リ善惡ノ別アラフナシヤ此時カルカライナ駭然與驚ノ色ヲ呈シ

ラ曰ク亦々虚無黨ノ一人ナルヲ嫌疑ス泰然之ヲ辨解シテ曰ク勿論虚無黨ノ主義ハ何ノ点ニ歸スルヲ知リザルヲ以テ苟モ之ニ黨スルノ嫌疑ハ更ニ之ヲ受クベヤノ理由ナレト雖モ請フ希クハ虚無黨ノ眞義ヲ問カン蓋シ虚無黨ノ主義ハ我ハ我々我育フ所ハ違ハス苟モ誰僞アルナレ農民ハ能ク其事實ヲ察知ス猶爲ノニ多少ノ困難ヲ來ス至リハ寧ロ農民ノ牛馬ヲ保護シテ假死セシムルニ至ルノ時ヲ待ツノミナリ然ラハ則チ常ニ牧場ニ放逸スル農民ノ牛馬ヲ捕ヘテ直ニ之ヲ返却スルノ處分ニ出テザルハ如何ソ其主義ヲ執ルニ吝カナル敵チ之ヲ爲サルナリ抑農民ハ隷奴解放令ニ依テ耕田ヲ得ルモ牧野ハ之ヲ得サルヲ以テナリトス故ニ牧場ノ監視ハ常ニ之ヲ怠ラズト謂フ

カルカレイキハ人事世事ニ關シテ之ヲ洞察スルハ極メテ英敏ナリト謂フベシ而シテ其論說ハ常ニ有益トルモノ多ク時ニ快愴ノ論アツテ冷汗身ヲ浸スノ感ヲ覺ユルモノアリト雖モ再三熟思シテ其得失ヲ審ニスルニアラザレハ忽然之ヲ聞テ妄リニ其論ニ感服スル能ハザルナリ抑チユウトニツシ人ノ頑固ナキ性質ヲ有スルヲ以テ全面ノ得失ニ關シ思想ノ本源ニ及ハサルノ時アリ人民ニ對スルモ又チ社會ニ對スルモ均シク慈愛ノ情ハ更ニ一点モ之ヲ有セザルヲ以テ内面ニ在テ内部ノ情實ヲ洞察スル能ハス然リ而シテ外面ノ枝葉ニ係ル事情ハ能ク之ヲ明察スルノ敏捷ナル性質ヲ有スルト雖モ其枝葉ノ發生スル根本ノ深慮ニ入りテ秘匿ノ密事ヲ探打スルノ才能ニ乏シト謂フベシ常ニ露人ニ對シテ世事ヲ慮スル

百般ノ事情臨機應變ノ處置ニ歸シテ安堵スルノ風アルヲ以
テ開進ノ主義ヲ論スルモ憤發ノ氣概ニ乏シク知識大ヒヨ滿
滯シテ復々發達ノ期ヲ見ルベカラズ十五年間ノ久シヤ露西
亞ニ在テ一區領内ノ事情ハ能ク之ヲ觀察スト雖モ更ニ地方
ノ事情ニ通曉セザルヲ以テ農民ノ生業社會ノ組織宗教ノ狀
況禮儀ノ制度移民ノ情實等ニ就テ之ヲ質問スルモ大抵誤謬
多ヤテ認ム蓋シ此等ノ事情ハ直ニ農民僧侶ニ就テ之ヲ探打
スルニ如カスト雖モ未タ方語ニ熟セザルヲ以テ暗惑ニ之ヲ
談話スルヲ得ルニ至ラザルヲ恨ルノヲ爲メニ有益ヲ得ル極
メテ少ヤヲ嘆スルナリ

露西亞語

外國語ヲ修ムルニ天性英敏ノ人ト雖モ露語ヲ學ブハ極メテ

難事ト謂フニ抑露語ハ元來アリアン方語ニシテ僅ニタル
タル方語ヲ混用スルヲ以テ西部歐羅巴人ニ在テハ耳ニ新奇
ヲ感シ若ニ發音ノ困難ヲ覺ユルナリ而シテ露語ノ基ク所ノ
根原ハギリコリアン及ヒナウトニツク方語ニシテ其方語ニ
リ轉來セタルモノナリト雖ドモ大抵其根原ヲ詳悉スル能ハ
ズ今其一例ヲ舉クレハ露語ノミカハ英語 *ミニミ*ノ變体ニシ
テ日耳曼語ノ *ミニ*佛語ノ *ミニ*ニ同シ皆テ父ノ義ナリ又カ
露語ノ語尾ニ使用シテ支配ヲ表スル *ニカ*ハ英語及ヒ日耳曼
語ノ語尾ニ用ユル *ニト*作用ヲ同クシ露語ノ *キリカ*ハ英語ノ
キリカ *ニシテ*賣翁ノ義ナリ又カ露語 *ochina*ハ或ハ *vochina*
ト記スルヲ以テ母字ノ *ニ*ハ日耳曼語ノ *ニ*英語ノ *th*ト
其根原ヲ一ニスルヲ知ルベシ而シテスワボニツク方語トナ

アリス之レ各國同一ノ事情ニ歸シ露人ノ英語ヲ學フモ亦々然リ露人ノ英語ヲ能クスルモノト雖ハ決シテ英人ニ似ルヲ得ス

露人ノ英敏

露西亞人ノ英敏ナルハ天然ノ性ニシテ露語ヲ修ムルハ困難ニシテ外國語ヲ學フニ敏捷ナルヲ見テ知ル可シ露國ハ在テ學士社會ハ必ク佛語ニ通曉シテ又ク英語或ハ日耳曼語ニ通スルヲ常トス西部歐羅巴人ニ比スレハ頗ル英敏ナリト謂フベシ抑露西亞人ノ英敏ナルハ心學ヲ修ムルニ歸因スベシト雖モ又々他ノ原因ハ歸スルモ知ルベカリス然リ而シテ今心學ヲ嫉忌スルノ私情ヲ去テ公平ニ之ヲ論スルモ他ノ事情ノ關係ヲ有スルハ強大ナクスト謂フベヤノミ露國ノ法學士ト

稱スルハ必ク外國語ニ通曉スルヲ要スルノ風習ニシテ上等社會ノ小兒ハ苟ク佛語ヲ教育スルヲ常トス大抵室内ニハ日耳曼人ノ姉妹佛人ノ教師英人ノ監督ヲ雇使スルヲ以テ小兒ハ三國ノ語ヲ慣用スルヲ得ルベシ猶露語ヲ修ムルニ至レハ大抵西部歐羅巴ノ語音ニ通曉スルヲ得ルト雖モ又々西部歐羅巴ハ於テハ快暢ノ語音アツテ露人ノ之レヲ發音スル能ハサルモノアリ爰ニ一例ヲ舉ケレハ「*Этот*」短音ニノ長音「*Э*」ト常ニ英人ノ耳ニ厭忌ヲ感スルニ轉音ヲ自得スルモノト雖ドモ此暢快ノ音調ハ露人ノ能ク談話スルヲ得サルナリ又ク英文典ニ於テ露人ノ常ニ困難ヲ覺ルハ動詞ノ「*и*」及ヒ「*и*」
「*и*」ノ細密ナル區別ヲ分解スルモノ少クトス昔々露西亞ノ貴族ハ世々外國語ヲ修ムルノ要アルヲ以テ遂ニ累世ノ才

能ヲ發達シタルト謂フベシ

教師

北地巡遊中ハ專リ語學ヲ修ムルニ從事シ農民ニ接シテ隨意ニ談話スルヲ得ル。至クソコヲ務メタリ先ツ第一ニ教師ヲ撰ニソリテ隨從シテ教ヲ奉シタル教師ハ一村落ノ僧正ニシテ篤實快爽ノ人ナリ能辨ニシテ專修ノ學問ニ關セス世事ヲ談シテ途上歩行ノ際ニ於テモ喃々獨語スルノ風アリ他人ノ之レヲ認ムレハ天ヲ拜シテ神ニ祈ルノ思思ヲ起スベシト雖モ容貌肥滿シテ顔色ノ赭面ナルヲ認ムレハ世人ノ之レヲ誤ルモノナキニ庶幾シ而シテ比隣十英里ノ人民ハ一日之ヲ誤認スルモノナレト謂フ農民ハ之ヲ呼クハトアレカト稱ス餘父ノ義ナリ僧正ヲ呼フノ尊稱トス又々常ニ談話ヲ嗜ミ對座

ノ人ナレト雖モ假想ノ敵手ヲ設ケテ嘲々獨語スルノ癖アリ亦々一奇人ト謂フヘヤナリ之ニ依テ語學ヲ修ムルニ稍便利ヲ得ルト雖モ談話ノ際其意義ヲ解シ難キヲ覺ルモノアリ又々消極点ヲ變更シテ之ヲ聞クニ退屈ノ感アリト雖モ嘲々談話シテ他事ニ關セス又々一事ヲ反復シテ一二回ニ及ソテ常トス抑事情ヲ聽ク之ヲ記憶スルニ於テ却テ便利ヲ得タリト謂フベシ

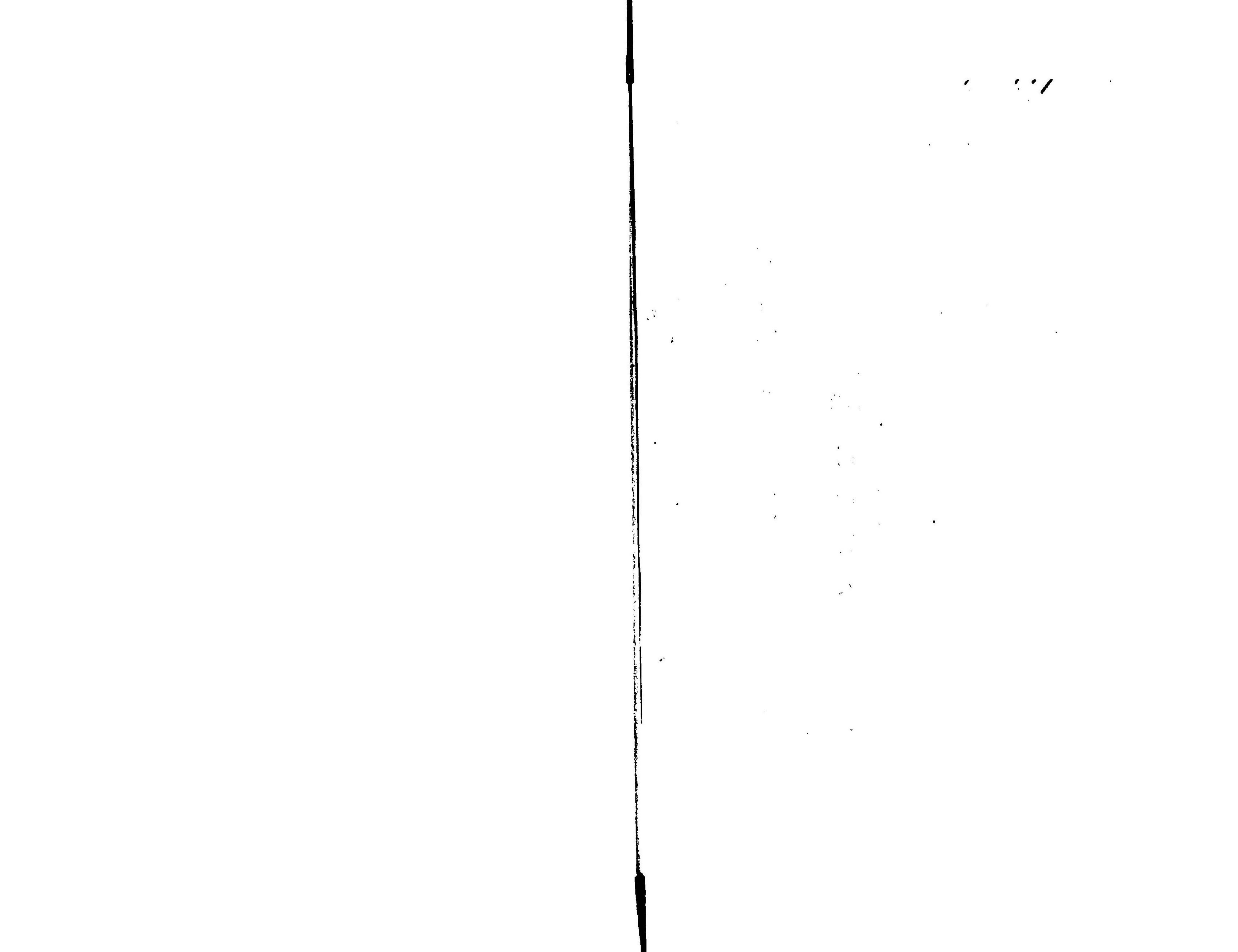
修學ニ就テ便宜ヲ得タル他ノ一事ハイバノフカニ於テ世事ノ關係ヲ脱シ日夜勉強ニ從事スルヲ得タルナリ只カレカルイナト共ニ時々ノ逍遙ヲ執ルヲ第一ノ快樂ト爲スノニ而テ毎日清光ハ安逸ニシテ世塵ノ爲メニ侵サルノ憂ヒナレト雖モ特ニ雨天ニ際シ廂下ノ通路ヲ取ルハ稍難事ヲ覺ルノニ又

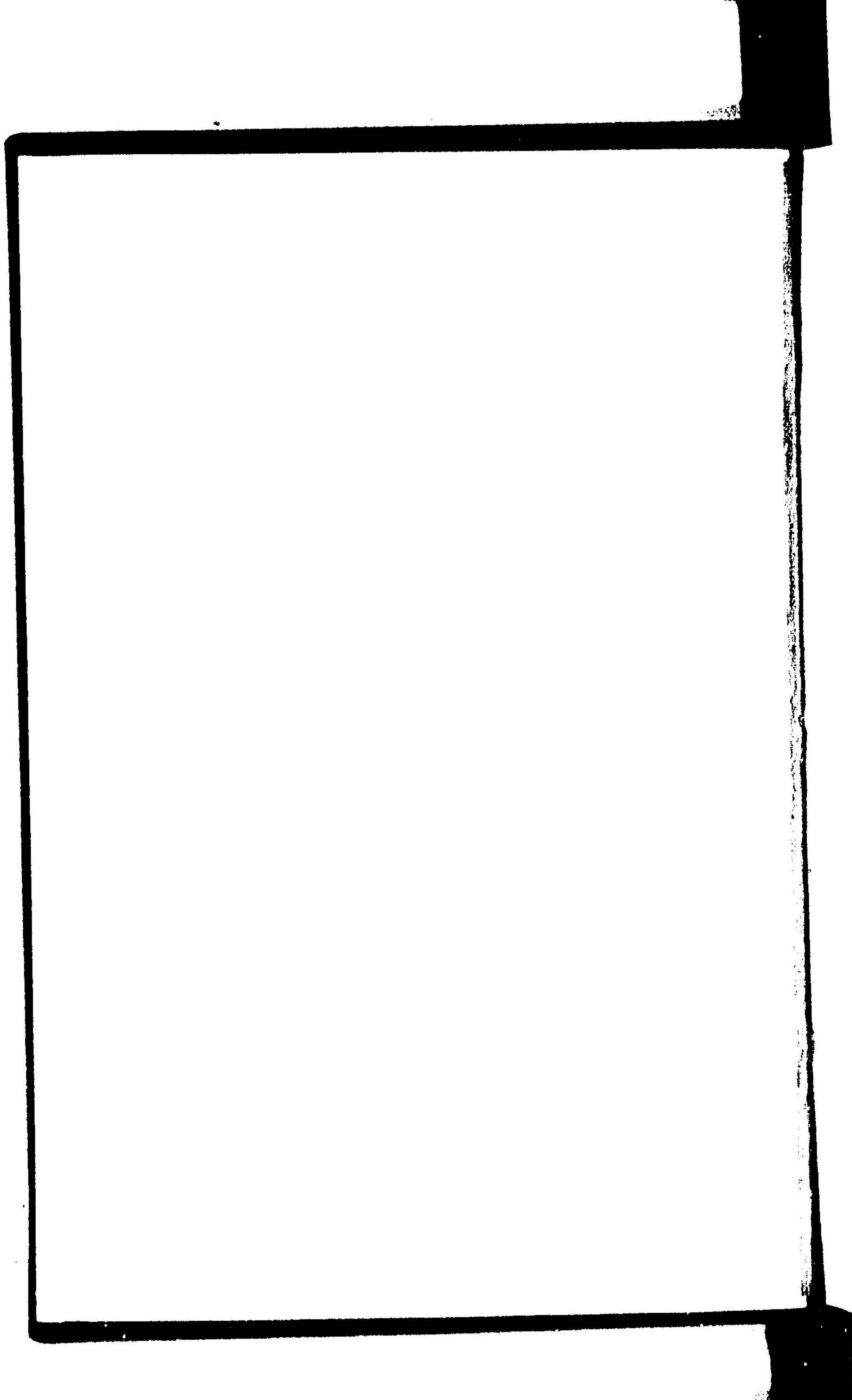
々快樂ノ遊ハ拾箇ノ郊遊ニシテ爾ヲ拾フニ其有毒無害ヲ判
 別スルニ苦シムナリ然レテ遊ケテ落外ノ幽靜ナル地ニ
 寄寓シタルヲ以テ閑散無爲ニシテ世事ヲ見サル一週或ハ二
 週ニ及ヒクリト謂フ蓋シ驛遞局ハ鉄道局内ニ在リト雖トモ
 定規ノ配達ヲ見ルナシ新聞信書ヲ行ケテ之ヲ簡便スルニアツ
 ザレハ苟モ配達ヲ得ルノ期ナシ比隣ノ農民通行ノ便ヲ以テ
 之ヲ得ルノ便宜アルノ、其不便ナル想フベキナリ

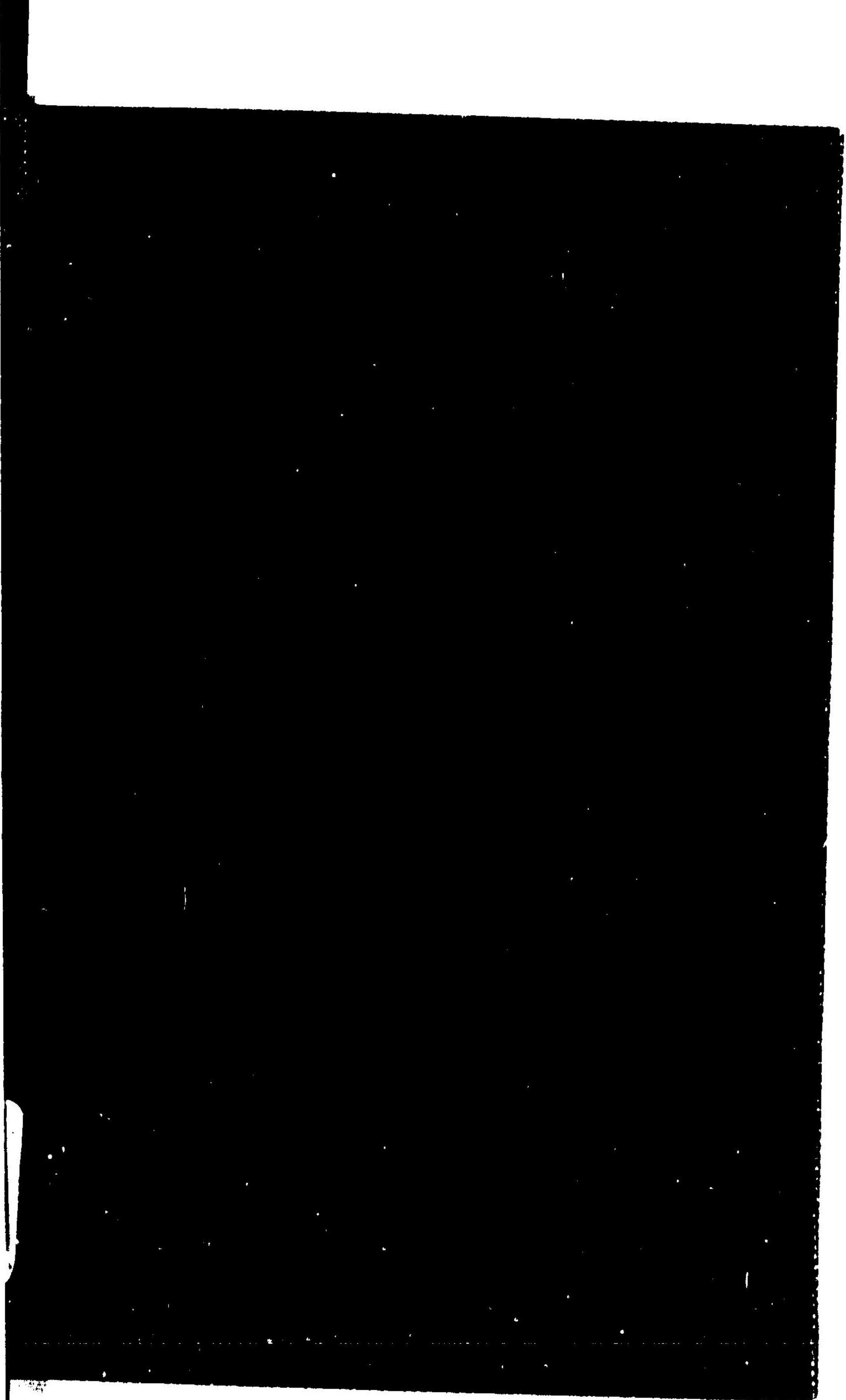
明治十八年三月十二日 板橋免許
 明治十八年三月 發兌 專賣

定額二錢五分

發兌 岡村 眞八郎
 麻布區飯倉三丁目四番地







25
180

026868-000-6

25-180

露国事情

マッケンジ・ウォルレイス / 著

岡村 良八郎 / 訳

M18

ADF-0049



